日本古典全集

假名遣奥山路（下）

古塚龍齋著



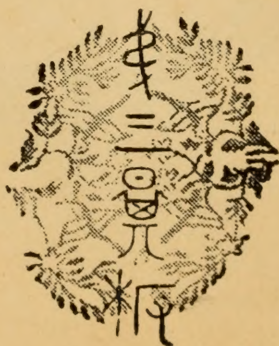
顧問
井上通泰先生
山田孝雄先生
新村出先生

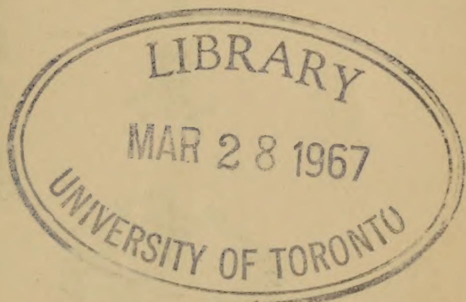
正宗敦夫 編纂校訂

日本古典全集

石塚龍麿著

假字遣奥山路 下卷




LIBRARY
MAR 28 1967
UNIVERSITY OF TORONTO



假字遣奧山路　中

かなづかひおくの山路二の巻

「さ」「し」「す」「せ」「そ」

さの部

【沙】 こは多く地名と人名とに用ふる假字なり

【二言】

○かさ 丹後ノ郡名 沙ヲ用 訶沙郡 紀天武

○すさ 地名 沙ヲ用 渚沙のいりえ 万十一ノ十四丁 卅八丁卅二丁

○さき 大和ノ地名 沙ヲ用 沙紀のたゝなみ 古中成務 万葉一ノ巻には「佐紀のみやともあり

○さば 周防ノ郡名 沙婆ヲ用 沙麼 紀仲哀 娑磨 景行

○さほ 大和ノ地名又人名　沙ヲ用　沙本『沙本ひこ『沙本びめ 古中垂仁　沙穗 万十ノ四十七丁

但し万葉廿ノ巻には『佐保ぢ『佐保がはなとに佐の字をも用ひたり

○さね 人名　沙ヲ用　沙禰王 古中應神

○さみ 人名又姓　沙ヲ用　沙美まろ 万廿ノ四十三丁　三方沙彌 二ノ十六丁　沙彌滿誓 五ノ卅六丁　沙彌 儀式帳

○うさ 豐國地名又人名　沙ヲ用　宇沙『宇沙つひこ「宇沙つひめ 古中神武

紀ノ神武巻神代巻には宇佐とあり

【三言】

○かさゝ 筑紫ノ地名　沙ヲ用　笠沙のみさき 古上

○さなめ 神号　沙ヲ用　わか沙那賣神 古上

○さには 祭神　沙ヲ用　沙庭 古中仲哀

○さらゝ 人名 娑ヲ用 娑羅々皇女 紀天智 娑羅々馬飼連 紀天武

【四言】

○さゝなみ 近江ノ地名 沙ヲ用 沙々那美 古中仲哀

應神段の歌に『佐々那美万葉一ノ十七丁に『佐散難彌と佐の字をも用ひたり是ぞ正しき假字の例にはありけるすべて地名と人名とに用ふる假字は歌に用ふるかなとは差別あるなり古書を考へてみたりにすへからす

○さねぐな 夷ノ人名 沙ヲ用 沙尼具那 紀齊明

○つきさら 地名 沙ヲ用 都岐沙羅 紀齊明

○さゝふし 姓 娑ヲ用 娑々布師首 紀天智

【五言】

○いふりさへ 夷ノ地名 娑ヲ用 伊浮梨娑陛 紀齊明

○いささわけ神号　沙ヲ用　伊奢沙和氣古中仲哀

【邪】濁音

【三言】

○さゞき鳥名　邪ヲ用　佐邪岐古中應神

○むざし國名　邪ヲ用　无邪志古上

【四言】【五言】

○いざなき『いさなみ神号　邪ヲ用　伊邪那岐『伊邪那美古上

いさなふ意のいさには奢邪をまじへ用ひたり古事記景行ノ段仲哀段に伊奢神武段應神段に伊邪とあり又万葉には射を用ひたり

○いざほわけ 人名　邪ヲ用　伊邪本和氣 古下仁德 履中清寧

【奢】濁音　奢の字は書紀万葉にはなき假字也

【五言】【六言】

○おきざかる 神号　奢ヲ用　淤伎奢加留神 古上

○いざさわけ 神号　同　伊奢沙和氣大神 古中 仲哀

○くひざもち 神人　同　久比奢母智神 古上

○いざのまわか 人名　同　伊奢之眞若神 古中 應神

しの部

【紫】

【三言】

○つくし國名　紫ヲ用　筑紫古上古中應神　万五ノ廿二丁　十四ノ十五丁　万葉廿ノ廿丁四十一丁に都久志ともかけり

【色】

【二言】

○しこ醜　色ヲ用　葦原色許男神古上『内色許男『内色許賣『伊賀迦色許賣古中孝元

こは色をのみ用ふるにはあらず志許とも四去ともあれども色はしこのしより外に用ひたる例なきゆゑにいだしつ

【師】

【二言】

○來きし姓　師ヲ用　阿知吉師古中應神　難波吉師同仲哀紀安康　多呉吉師紀神功　但し雄略紀には吉士とかける處

も見ゆこは淸濁は違へり天武紀には吉志とかける處もあり

○はし姓　師ヲ用　土師紀神代仁德 万十六ノ廿一丁

【三言】【四言】

○いちし花名又伊勢大和ノ地名　　師ヲ用　壹師君古中孝昭 市師池垂仁 壹師花万十一ノ十一丁　但し和名抄には壹志ともあり

○くすりし藥師　師ヲ用　久須理師佛足石哥三處

【斯】　斯と志は多く通用するかななれども又定りて斯をのみ用ひたる處もあれば今は定りあるをのみあぐされども書紀万葉はみだりなれば古事記にのみよりつ

○云々し過去のし也。　斯ヲ用　くき斯『をき斯『まぎ斯あたね『わがゐね斯古上　わがおき斯『こひ斯こらはも古中景行　わがみ斯こら『あかみ斯已に『きこえ斯かこも『かみ斯おほみき古中應神　うち斯おほね『しほにやき斯があまり古下仁德　さつりこ斯みきぞ古中仲哀　にげのぼり斯古下雄略　わ

がふたりね斯（古中神武）

皆かくのごとし一處も志を用ひたる事なし

○云々し『しき『しく　斯ヲ用　すが〳〵斯『あたら斯『こほ〳〵斯（古上）みつ〳〵し（古中神武）うらこほ斯（古下清寧）　さか斯けご『さか斯く（同仁德）たぬ斯久（同）うるは斯（古中景行 同下允恭）かただぬ斯（古中應神）ゆゆ斯岐（下雄畧）

但し古下雄畧段に『とも志岐仁德段に『さか志美古上に『よろ志。古中應神段に『うるは志『かな志けくなど志をも用ひたれども今はおほきかたによりつ

（附箋）

古下雄畧　三イ二十八丁ウ　同中イし　おもしろき

かしこし　うしき

ノ格也

○云々し（助辭也）　斯ヲ用　めに斯あれば『こ斯よろし『いを斯なせ『きみがよそひ斯（古上）えを斯まかむ『うちて斯やまむ（古中神武）おほきみ斯『こもに斯つめば（古下仁德）ね斯久を斯そも『はやけ

むひこ斯古中應神さね斯さねてば『おほをに斯古下允恭こ斯もあやにかしこし古下雄畧

但し古上に『めに志あれば古中神武段に『うちて志やまむ『たれを志まかむ古下仁德に『うへ志こそ古中景行に『やまと志うるはし應神段に『わがこゝろ志そなど志をも用ひたれども今はしばらくおほきかたによりつ

○し汝也　斯ヲ用　斯がしたに斯がはなの古下仁德斯があれば同淸寧　但し仁德段に芝‖の字を　處用ひたるは正しからじ

【二言】

○あし葦　斯ヲ用　阿斯かび古上阿斯はら古中神武

○あし足　斯ヲ用　阿斯古中景行古下允恭

○うし大人　同　わづらひの宇斯『あきくひの宇斯古上ひわたらすみちの宇斯古中開化垂仁四處　但し開化段に一處志‖を用ひたり

○こし腰　斯ヲ用　許斯古中景行

○さし物ノサス也　同　佐斯けるしらに古中應神

○さし差　同　佐斯まき古中崇神さね佐斯古中景行

○しり後　同　斯理つゝ古中崇神みちの斯理同應神　斯利くめなは紀神代古語拾遺　斯圖梨がみ紀神代　斯利蔽之紀齊明斯利万十四ノ十六丁　但し古事記應神段に志理都紀斗賣といふ人の名には志を用ひたり

○しる知　斯ヲ用　うかゞはく斯良に古中崇神さしける斯良に『はへけく斯良に神斯良次ゝもいはめ古上仁德ねむゝ斯理せは履中人斯理ぬべし允恭　皆かくのごとし

○しるこは知食　斯ヲ用　ふゝ斯理『たか斯理古上三處つひに斯良牟ゝ古中仁德　一處も志を用ひたるはなし

○しく及　斯ヲ用　おひ斯伎古上い斯祁『い斯岐古下仁德

○しく敷　同　斯岐古中神武

○しる汁　同　斯流古上

○にし西　同　尒斯古中仁德

○こし年　同　登斯古中景行

○云々して　同　をこに斯氏古中應神

○云々らし　同　かりこむ良斯古下仁德さかみづく良斯同雄畧　おきめく良斯も同顯宗　但し神武段に
はやくさみます良志と志をも用ひたり

○ぬし主　斯ヲ用　おほくに奴斯古上

○ひし菱　同　比斯古中應神

○ふし柴　同　布斯古上

○云々まし　同　たちはけ麻斯を『きぬきせ麻斯を古中景行ゐねて麻斯もの古下雄畧　但し履中段に

は一處志を用ひたり

【三言】

○うかし人名　斯ヲ用　宇迦斯古中神武

○かふし　同　うな加夫斯古上

○くしろ釧　斯ヲ用　さく久斯侶

○さしふ木名　同　佐斯夫古上

○うしろ後　同　宇斯呂古中應神

○しこゝ鳥名　同　斯登々武同神

○みけし衣　同　美祁斯古上

○きゞし雉　同　岐藝斯古上

○しろし白　同　斯路岐古上斯良たま同斯漏ただむき古下仁德斯漏たへ同雄畧　一處も志を用ひず

○しぬぶ忍　同　斯怒波米古下允恭

○しまり結　同　斯麻理古下清寧

○えしぬ大和地名　斯ヲ用　延斯怒古下雄畧

【四言】

○くらはし地名　斯ヲ用　久良波斯古下仁德

○はしたて枕詞　同　波斯多底古下仁德

○みはかし人名　同　美波迦斯ひめ古中景行

【五言】

○いしたふや　斯ヲ用　伊斯多布夜上古

○しめころも染衣　同　斯米ころも上古

○いすくはし鯨ノ枕詞　同　伊須久波斯古中神武

○はしけやし愛　ニツトモニ　同　波斯祁夜斯古中景行波斯つま同下仁德

○むしぶすま和の枕詞　斯ヲ用　牟斯ふすま上古

○おしろわけ人名　同　淤斯呂和氣古中垂仁景行

【六言】【七言】

○いしこりこめ神号　斯ヲ用　伊斯許理度賣上古

○やまさきたらし 神号　同　山岬多良斯 神古上

これに准らへて『あまたらしなどのし゜にも斯゜を用ふべし

【志】　志のかなは書記万葉には用ひざま定めなければ古事記にあるをのみこゝにはいだしつ又志と斯とまじへ用ひたるをば畧きてあげずこはいづれにても違ひなければ也

【二言】

○云々し こは立をタ、シと云類也　志ヲ用　きのべに陀々志 欽明紀　あまの浮橋に多々志而 古上二處

【二言】

○しぎ 鳴　志ヲ用　志藝 古中神武 万十九ノ九丁

○しが 近江ノ地名　同　志賀 古中仲哀

○しび 魚ノ名人ノ名　同　志毘 古下淸寧九處　但し一處ニ斯を用ひたるは不正

○しま 嶋　同　あは志摩『おのごろ志摩『あぢまさの志麻『さけつ志摩 古下仁德 いちゝ志摩『み

志摩古中應神　あきづ志麻古下雄畧　志麻つこり古中神武

但し古上に『や斯麻くに『斯麻のさきさき允恭段に『斯麻ともあれど今はしばらくおほきかたによりつ

○くし酒也　志ヲ用　久志のかみ古中仲哀　こゝな具志『ゑ具志應神

○こし越ノ國也　志ヲ用　高志古上古中孝靈崇神垂仁仲哀　斯を用ひたる處一つもなし

○しで垂　同　志殿古上

○しは物ノ至リ極ル處ヲしはト云　同　志波古中應神

○しば柴　同　志婆かき古下清寧　但し一處斯を用ひたり

○しき河内地名　同　志幾古中景行同下雄畧

○しこ醜　同　志許古上　斯を用ひたる處はなし但し色を用ひたる處は見ゆ此事色の部にいへり

○云々べし可　同　しりぬ倍志古下允恭

○しめ シメオク也　同　み志米き 古下 清寧

○云々よし　同　あをに余志 古下 仁德　やほに余志 同 雄畧　おふを余志 古下 清寧

○はし くちはし也　志ヲ用　はなみ波志 古中 應神

【三言】

○いづし 人名又地名　志ヲ用　伊豆志をこめ『伊豆志のやまへの大神『伊豆志がは 古中 應神　一處も斯の字を用ひす

○うつし 顯　志ヲ用　宇都志くにたま『宇都志日金拆 古上　宇都志伎あをひとくさ 古上中 應神　宇都志おみ 古下 雄畧　一處も斯の字を用ひず

○しゞむ 人名　志ヲ用　志自牟 古下 安康 清寧

○しめす 近江ノ地名　同　志米須 古下 顯宗

○かしひ 筑紫地名　同　訶志比 古中仲哀

○しぶみ 人名　志ヲ用　志夫美宿禰 古中開化

○しひだ 姓　同　志比陀君 古下宣化

○こほし 人名　同　登富志郎女 古中應神

○にぎし 神号　同　天迩岐志國迩岐志 上古

○むざし 國名　同　无邪志 上古

○うまし 稱言　同　宇麻志あしかび 上古 宇摩志まぢ命 古中神武

○きたし 人名　同　岐多志ひめ 古下欽明用明　一處に斯を用ひたるは不正ならむ歟

○こきし 幾許　志ヲ用　許紀志 古中神武

○きこしかモ聞　同　岐許志もちをせ古中應神ありこ岐加志て『ありこ伎許志て『なこひ岐許志古上

○たぎし人名又地名　志ヲ用　多藝志み〻命古中神武多藝志ひこ懿德多藝志のをはま古上　但し景行段に舵には當藝斯と斯の字を用ひたり

○いましオハシマス也　志ヲ用　あくらに伊麻志古下雄畧ひろり伊麻志同　但し仁德段には『てり伊麻斯ともあり

○わしり走　志ヲ用　和志せ古下允恭

【四言】

○あしひき山の枕詞　志ヲ用　阿志比紀古下允恭

○うしはく　同　宇志波祁流古上

○おしてる難波枕詞　同　於志氐流古下仁德

○かゑしね人名　志ヲ用　訶惠志泥命古中 懿德

○しただみ細螺　同　志多陀美古中 神武

○しつうた　同　志都歌古下仁德雄畧　又武烈紀に「志都はたゝ万葉五ノ九丁に『志都くら三ノ卅三丁に『志都のいはやなどにも志の字を用ひたり

○もゝしき宮の枕詞　同　毛毛志紀古下允恭

○さかしめ賢女　同　佐加志賣古上

○くはしめ細女　同　久波志賣古上

○須賀しめ心淨き女也　同　須賀志賣古下仁德

○かきなし掻成　同　かき那志古上

【五言】

○あなにやし　志ヲ用　阿那迩夜志古上

○いとしわけ人名　同　伊登志別古中垂仁

○しらきうた　同　志良宜歌古下允恭

○しなつひこ神号　同　志那都比古神古上

○しなたゆふ枕詞　同　志那陀由布古中應神

○まなはしら鳥名　同　麻那婆志良古下雄畧

【六言】

○いなこしわけ人名　志ヲ用　伊那許志別古中

○しぎやまつみ神号　同　志藝山津見神古上

○ひしろのみや雄略天皇ノ大宮處　同　比志呂のみや古下雄略

【八言】【九言】

○ひならしびめ神号　志ヲ用　比那良志びめ古上

○たひりきしまるみ神号　同　多比理岐志麻流美神古上

○あぢしきたかひこね神号　同　阿治志貴多迦比古泥神古上

【至】

【三言】

○ふゝし能登郡名　至ヲ用　鳳至郡万ノ十七ノ二十丁和名抄

【自】濁音

【二言】【三言】

○こじ 戸主　自ヲ用　刀自 紀允恭万葉集 中儀式帳　万葉にはじのかなにはかれこれ通して用ひたれどもとじには自をのみ用ひたり

○しじむ 人名又地名　自ヲ用フ　志自牟 古下 安康

○いしむ 東國ノ地名　自ヲ用フ　伊自牟 古上　古事記に自の字を用ひたるはこれらのみなの外は皆士の字を用ひたり凡て士の字はひろく用ふる假字なりかれ今は自をあげて士をいださす

【周】

○すはう 國名　周ヲ用フ　周芳 紀仲哀 万四　廿六丁

せ之部

【勢】

【二言】

○いせ 國名又姓也　勢ヲ用フ　伊勢 古中神武紀景行万葉集中　伊勢部　勢‖の字は凡ては用ひざま定めなきをイセのせには勢‖の字をのみ用ひて世‖の字をば用ひず書紀に齊‖の字を用ひたるはあらたに假字をえらびて用ひたるなり

その部

【蘇】

○そ 麻也　蘇素ヲ用フ　へ蘇 古中崇神 なつ蘇 万十四ノ八丁 なつ素 同三丁 ま蘇ゆふ 二ノ廿五丁 ま素むら 十四ノ十二丁 大閇蘇禰 姓氏命錄 麻蘇 義寛平緣起　延喜式に曾の字を用ひたるは正しからず

○そ 幾そ‖のそ‖也　蘇素ヲ用フ　あまのや蘇かげ 紀推古 や素はのき 仁徳 や素つゞき 神代 夜蘇しま 万十五ノ九丁 十七丁 夜蘇こゝ 十四十九丁 夜蘇くに 廿ノ十七丁 夜蘇こものを 十七ノ卅六丁十九丁 夜蘇くさ 『彌蘇ち 佛足石哥　曾を用ひ

たる處はなし

【二言】

○あそ 姓又筑紫東國地名　蘇素ヲ用フ　阿蘇古中神武紀景行万十四ノ十六丁 安素万十四ノ十四丁 安蘇郡和名抄

○あそ 播磨地名　宗ヲ用フ　阿宗古中開化 阿宗神社神名帳　蘇と宗とは通用の假字ながら播磨のあそには宗の字をのみ用ひたり又信濃の國の地名のあそにも和名抄に宗の字を用ひたり

○いそ 礒　礒宗ヲ用フ　伊蘇古上古中景行万十七ノ七ノ十四丁卅三丁卅四丁　十伊宗万廿ノ十六丁 伊蘇乃佐只神社神名帳　但宗の字は一處のみなり又万葉九ノ十六丁に衣を用ひたるは不正

○きそ 信濃地名　蘇ヲ用　奥十山(オキソヤマ)『奥礒山(オキソヤイ)』万十三ノ七丁 岐蘇山續日　十礒は蘇のかり字なり

○くそ 糞　蘇ヲ用フ　倶蘇紀神代　神名帳に新具蘇姫神社と云もみゆ

○すそ 裾　蘇ヲ用フ　須蘇古中景行又万十四廿三丁九ノ八丁十五ノ十九丁儀式帳 須素万六ノ廿九丁 須十。万一ノ廿丁

○そか姓又地名　蘇宗ヲ用フ　藤賀古中孝元紀推古神名帳宗賀古下欽明万十二ノ廿七丁神名帳

○そに宇陀ノ地名　蘇素ヲ用フ　蘇迩古下仁德素珥山同紀

○そひ地名歟又副歟　蘇ヲ用フ　蘇比のはり原万十四ノ十三丁　蘇比のわかまつ同廿五丁

○そひそふ添　蘇泝素ヲ用フ　い蘇比古中應神かは泝比紀顯宗　蘇倍万七ノ五十丁十七ノ四十六丁　みに素布十四ノ廿三丁

○そま杣　蘇ヲ用フ　蘇麻山万三ノ二十八丁　蘇麻人七ノ卅四丁

○そり　蘇ヲ用フ　蘇理たゝして古上

○そら虚空　蘇ヲ用フ　蘇良はゆかす古中景行蘇羅みつ紀雄畧　蘇良ゆこきぬよ万十四ノ十四丁　おもふ蘇良」なげく蘇良万十七ノ廿六丁　こふる蘇良廿ノ卅七丁　みちの蘇良ぢ十九ノ廿五丁　蘇羅比古神社神名帳
万十八ノ卅丁に曾‖を用ひたる正しからず

○こそ越也但東語　祖ヲ用フ　しほふねのへ古祖しらなみ万廿ノ卅一丁

○ゐそ 備後ノ郡名　蘇　惠宗出雲風土記　惠蘇神名帳和名抄

【三言】

○あそび 遊　蘇素ヲ用フ　阿蘇毘古下清寧紀武烈万五ノ十六丁十七丁　阿素弭紀天智万五ノ十六丁十七丁　古事記仲哀段には阿蘇ばせともあり又万葉十八ノ八丁に曾を用ひたるは不正

○あそゝ　蘇ヲ用フ　安蘇蘇万四ノ廿三丁

○いそし 功也又姓　蘇ヲ用フ　伊蘇志紀仲哀續日十七姓氏錄　伊蘇はく万一ノ廿二丁

○いそき 急　蘇ヲ用フ　已蘇伎万廿ノ廿丁

○いそま 地名　素ヲ用フ　伊素末のうら万十五ノ七丁

○おきそ 息嘯　蘇ヲ用フ　於伎蘇の風万五ノ六丁

○すそみ 山ノ下ノ邊ヲ云　蘇ヲ用フ　つくはねの須蘇廻万九ノ廿三丁　須蘇末のやまの十七ノ卅四丁　たかまご

のみやの須蘇末の 廿ノ十五丁

○そじき 丹波ノ地名　蘇ヲ用フ　蘇斯岐 紀安閑

○そなふ 備　蘇ヲ用フ　き蘇那布 古下雄畧 たぎ十名相 万十ノ卅六丁

○なそへ 准　同　奈蘇經 万八ノ十九丁廿ノ十二丁十八ノ十丁　廿ノ四十六丁に曾を用ひたるは不正

○はゝそ 柞　同　波波蘇 万九ノ十六丁廿ノ卅六丁十九ノ十四丁　萓万に曾を用ひたるは不正

【四言】

○あらそひ 爭　蘇素ヲ用フ　阿良蘇波受 古中應神 阿羅素破儒 紀同 安良蘇比 万十四ノ十九丁

○いそばひ 俗ニ云ツトヘル也　蘇ヲ用フ　伊蘇婆比 万十三ノ五丁

○かそけし 幽　同　可蘇氣伎 万十九ノ廿二丁廿六丁

○そきいた　同　十寸板（ソキイタ）万十一ノ廿七丁

○そにこり鳥名　同　蘇迩こり古上

○たけそか邂逅　蘇ヲ用フ　多鶏蘇香万六ノ卅四丁

○うそふく嘯　同　こは前のおきその條と考合すへし

【五言】

○いそのかみ大和ノ地名　蘇ヲ用フ　石上古下履中紀仲哀万六ノ卅六丁　石（イソ）はうみへの礒にかゝり用ふる文字にて万葉三ノ卅三丁「前へのしまうのすむ石（イソ）にとあり礒のそには蘇を用ふる格なる事上にいへるがごとし又神名帳に伊勢國ニ伊蘇上神社と見ゆ

○まそかゞみ眞澄鏡　蘇素祖ヲ用フ　麻蘇鏡万十七ノ八丁五ノ卅九丁十五ノ卅六丁十九ノ卅丁　眞素鏡十一ノ廿九丁同廿五丁　眞祖鏡十一ノ十三丁　眞十鏡十一ノ廿五丁

【曾】

○そ 辭　曾層所ヲ用フ　なしせたまひ曾古上いきらず層くる紀仁徳　いかにふここ所紀繼体　かく所しこなる万十六ノ九丁　なきわたらむ曾十八ノ十三丁　又かり字なるは万葉十二ノ十丁に『われは衣わぶる同十九丁に『おもひ衣わがする三ノ廿四丁に『あひみしめと衣などあり

○そ 衣　曾ヲ用フ　万葉に衣を曾のかり字に用ひたれば證としつ

○そ 俗ニソツトと云事　同　曾たゝき古上　万葉十四ノ十九丁ニ『わは素ともはじ

○そ 背　同　曾びら古上曾がひ万十四ノ十一ノ卅六丁十七ノ四十丁廿ノ五十三丁十九ノ廿五丁　曾むき万五ノ五丁

【二言】

○かそ 父　曾ヲ用フ　柯曾紀仁賢

○きそ 昨夜　同　伎曾万十四ノ廿六丁廿八丁卅三丁卅四丁　二ノ廿三丁に賊の字を用ふ賊（ママ）の字の誤ならむ歟

○くそ人名　僧ヲ用フ　久僧古紀推

○こそ地名　曾ヲ用フ　許曾万十四ノ廿三丁

○こそ願の詞　曾増ヲ用フ　ちらすあり許曾万五ノ十八丁いほよつぎ許増六ノ十八丁

○こそ辭也　曾所ヲ用フ　おほくにぬし許曾は古上ここを許曾古下允恭な虚曾は紀仁徳　あめに擧曾雄略

こひ許増まされ万十ノ卅九丁なにこ曾よされ十四ノ廿二丁むね己所いため三ノ九十六丁さためぬに己曾あれ續日宣命

猶おほし一處も蘇素なとを不用

○そこ底　則曾ヲ用フ　たな則擧紀顯宗みな曾虚仁徳わたの曾許万五ノ十三丁あめつちの曾許比のうら十五ノ卅四丁

○そこ其處　曾所則ヲ用フ　曾許におもひ古下仁徳紀同曾許もあかにこ万十七ノ卅六丁則許もへば同四十二丁所虚ゆゑに二ノ卅一丁所己をしも同卅三丁曾許しうらめし一ノ十二丁

○そき（ケ圧）退　曾ヲ用フ　曾岐をりこも古下仁德　やまの曾伎〻ぬの衣ツ寸万六ノ廿五丁　曾伎へ十七ノ廿四丁十九ノ廿七丁　こほ曾吉十四ノ十丁　くさねかり曾氣十四ノ廿二丁

○そね　姓　曾ヲ用フ　曾禰連紀天武

○そや　箭の名　同　おひ曾箭万廿ノ卅四丁

○その　其　曾贈諸ヲ用フ　曾能やへがきを古上　贈迺やへがきを紀神代　諸能たびこ紀推古　曾能つまのこ万十八ノ廿六丁

○その　園　曾僧則ヲ用フ　はふり曾能古中崇神　わがへの曾能万五ノ十五丁　僧能同十九丁　わか則能同丁　猶あり

○そば　木名　曾ヲ用フ　曾婆古中神武紀同

○そほ　大和地名　層ヲ用フ　層富紀神武

○そほ　赭　曾ヲ用フ　あけの曾保船万三ノ十九丁廿二丁十ノ卅二丁　ま曾保十四ノ卅三丁

○そめ染　同　曾米古上万廿ノ四十一丁

○そめ始也　同　おもひ曾米万十八ノ十四丁　みだれ曾米十四ノ五丁　時鳥いまきなき曾無十九ノ十七丁

○おそ朝臣　曾ヲ用フ　うちの阿曾古下仁徳紀同うちの阿曾紀神功　いけだの阿曾『ほつみの阿曾』へくりの阿曾万十六ノ廿一丁

○うそ虚言　曾ヲ用フ　乎曾呂万四ノ四十丁　おほ乎曾ごり十四ノ廿七丁

○ほそ細　同　ひは煩曾古中景行　いなさ保曾江万十四ノ十五丁

○よそ外　曾増ヲ用フ　余曾万十九ノ十六丁十四ノ十三丁十七ノ卅二丁十五ノ六丁　余増十七ノ四十丁　三ノ卅八丁に「四十ヅとあるは正しからず

○そよ物の音也　曾ヲ用フ　曾與万廿ノ卅四丁　もこはも曾世に十ノ卅二丁　まくらも衣世に十二ノ六丁

○そる剃　同　かみを曾利て續日宣命　但し外に假字書を見あたらず

【三言】

○くまそ國名　同　熊曾古上　熊襲紀仲哀　球磨贈豐後風土記

○こそへ姓又地名　同　巨曾倍万八ノ巻 姓氏錄

○そゝく　同　みな曾曾久古下雄畧 紀武烈

○そゝり進也　曾ヲ用フ　あま曾曾理万十七ノ四十一丁

○そこば幾許　同　曾許婆万十七ノ卅四丁

○そほご神号　同　やまだの曾富騰古上

○そほり神号　同　曾富理神古上

○そほつ濕　同　曾裒遲紀武烈

○よそひ装束　曾贈ヲ用フ　與曾比古上万十四ノ廿九丁廿ノ卅丁　與贈比紀神代　与曾保比佛足石歌

○よそふ人名　曾ヲ用フ　與曾布万廿ノ廿八丁

○よそる　同　余曾利万十四ノ十二丁三ノ十八丁　余所留十二ノ廿三丁

○よそへ　同　與曾倍万八ノ五十五丁　曾倍てだに見む同丁

○をそね　同　鳴贈禰紀顯宗

○おそき襲衣　同　於曾伎万十四ノ廿七丁

○おそし遲　同　於曾万十四ノ廿四丁

【四言】

○そきたく幾許　曾ヲ用フ　曾伎太久万廿ノ廿九丁

○そこらく同　同　曾己良久万九ノ十八丁

○そしもり 新羅地名　同　曾尸茂梨 神代紀

○そゝきぬ 地名　層増ヲ用フ　層増岐野 神功紀

○そつびこ 人名　曾ヲ用フ　曾都毘古 古下仁徳

○そはかり 人名　同　曾婆訶理 古下履中

○そほふる 雨シホ〳〵フルヲ云　曾ヲ用フ　こさめ曾保ふる 万十六ノ廿九丁

○いたけそ 社名　同　伊太祁曾 續日二和名抄神名帳

すべてかくさまのそには曾を用ふる例なり「くに曾「曾つびとなど皆曾の字を用ひたり

○うつそみ 題　同　宇都曾美 万十九ノ廿七丁二ノ廿六丁

○おそふる 戸ヲ押ヲ開トムルヲ云　同　淤曾夫良比 古上万十四ノ廿丁

○なのりそ 藻名　同　なのり曾 万七ノ廿八丁

○ひめごそ社名　同　比賣碁曾古中應神紀垂仁

【六言】

○そほりの山日向ノ高千穗の中に有り地名　曾ヲ用フ　曾褒里の山紀神代　書記に添山(ソホリ)とかけるはまさしくはあたらず『そへ『そふなどには蘇の字を用ふる例なればなりされど二言三言を一もじにかく時はまさしくあたるもじなきゆゑにかくはかけるなるべし此類ひ万葉にも見ゆ十ノ六十丁に『よそへといふ事に與副とかけるなど是におなじ

○いはくまのそ出雲ノ地名　曾ヲ用フ　石坰之曾のミや古中垂仁

たの部

【當】

【三言】

○たぎま 地名　當ヲ用フ　當藝麻古下 履中　書紀には哆嚐摩とありこもたがへるにはあらず凡て當の字はタキとつゞく處ならては用ひたる事なし又當の字をタキ二合のかなに用ひたる例もあり古事記應神段に當(タギ)摩書紀舒明卷に雄當(ヲタキ)万葉一ノ廿一に當(タギ)麻六ノ四十三丁に布當(タギ)十ノ四十一丁三ノ廿七丁に當(タギ)知などあり

○たきぬ 美濃ノ地名　當ヲ用フ　當藝野古中 景行

○たきし 舵　當ヲ用フ　當藝斯古中 景行

【五言】

○たきしみゝ 人名　同　當藝志美美命古中 神武　多の字を用ひたる處もあり

ちの部

【智】

【二言】【三言】

○みち獣名　智ヲ用フ　美智古上

○ちぬ河内ノ地名又人名　同　智奴古下敏達紀神武万九ノ卅五丁十七ノ十四丁廿ノ五十四丁　但し万葉には陳知を用ひたる處も
あり

○をろち大蛇　同　遠呂智古上

【四言】【五言】

○くゝのち神号　同　久久能智神古上

○すひちに神号　同　須比智邇神古上

○あかゝぶち　同　赤加賀智古上　但一處に知を用ひたり

○くひさもち神号　同　久比奢母智神古上

○ほむちわけ人名　同　本牟智和氣古中垂仁　書記万葉には智と知を通はして用ひたれば今古事記にあるをのみこゝにはいだしつ叉知の字は廣く用ふる假字なればあげずこゝにいだしたる智の外は皆知を用ふとしるべし

つの部

【都】

○云々つゝ乍　都菟追ヲ用フ　うたひ都都古中仲哀うたひ菟菟紀神功きゝ都追万十九ノ廿五丁　これらは必ス定りあるにはあらねども万葉にあまた都追とかけるゆゑにあげつ万葉には凡てつゝとつゞく處には多く都追とかけり十五ノ四丁に都追牟ことなく十四ノ卅一丁に都追美十六ノ廿九丁に都追伎やぶりなどある皆用ひざまひとし

ての部

【帝】

○ふてみゝ神号 帝ヲ用フ 布帝耳神古上 但し神武段に『ゆき帝
こむためなどてにをはにも用ひたれば亘と通用する假字なり

との部

【斗】

○こ利又速也 斗刀ヲ用フ 斗かま古中景行 斗め神武 みしまに斗き應神 刀こゝろ万廿ノ五十四丁 いける刀も
なし二ノ四十丁四十二丁 生戸もなき十一ノ十五丁 万葉十九ノ十六丁に『いける等もなしとあるは正しからじ但登等は
斗に通はして用ひたる處もありこはその條々に見ゆ

○こ戸 斗刀姤杜圖ヲ用フ いた斗古上 しりつ斗『まへつ斗古中崇神 かな斗古下允恭 あさ斗『ゆふ斗雄略
あさ姤紀崇神 かな杜紀安康 いた圖繼体 いた斗万五ノ九丁 かな刀十四ノ卅四丁同卅三丁 あさ刀廿ノ卅七丁丹後風土記 あまの刀廿ノ五十丁
一處も登等などを用ひたるはなし

○と海門　斗刀ヲ用フ　ゆらの斗の斗なか古下仁德紀應神刀わたる船万十七ノ七丁なには刀廿ノ廿九丁

○云々と處也　斗刀ヲ用フ　おほ斗のぢの神『おほ斗のべの神』み斗のまぐはひ『み刀あたはしつ古上

○云々とつてに通フ　刀ヲ用フ　多立刀つく月万十四ノ廿二丁ひが日照刀禮ば『あ雨めを萬待刀のす如『きみをと待麻刀も同卅三丁

【二言】

○と賀木名　刀ヲ用フ　刀我のき万六ノ十丁

○とぐ磨也　同　刀具万廿ノ五十一丁

○とじ戸主　刀視ヲ用フ　視自紀允恭　刀自万葉集中儀式帳

○こべ女ノ稱　刀姤ヲ用フ　荒河刀辨古中崇神 苅羽田刀辨垂仁 姤紀神武 級長戸邊紀神代

○こめ女ノ稱　斗ヲ用フ　志理都紀斗賣古中應神 建國勝戸賣開化 大閤見戸賣同 氷飩斗賣神社古 太比理刀咩神社神名帳

○こひ『こふ問　斗刀又登等ヲモ用フ　斗比しきみはも古中景行 斗比たまへ古下仁徳 みち斗問ば同履中 われを斗波する紀仁徳 刀比さけ万五ノ六丁 まち刀敷十七ノ廿一丁 刀比同卅ノ三丁 刀布廿ノ四十一丁 ○わが登布いも古下允恭 人の等布まで万十八ノ十五丁 等波無廿ノ四十六丁 登比同四十三丁　かくあれば定めがたけれど斗刀を用ひたる處々おほければまづは斗によるべくおもはる

○こひ伊豆地名　刀ヲ用フ　刀比のかふち万十四ノ七丁

○こり『こる坂　斗刀圖居又登等苫ヲモ用フ　さを斗理古中應神 い斗良牟こ古中應神紀仁徳 斯圖梨がみ紀神代 あこ圖唎『まくら圖唎紀繼体 さを刀利仁徳 ちゝ刀利こまし万五ノ廿八丁 い刀良して同十三丁 刀なふべみ十四ノ廿一丁

○さゝき登良さね『わがて登良すも古下仁徳登理よそひ古上人登理がらし古中應神のちも登理みる古下允恭ひれ登理かけて古下雄畧すゞふね苫羅せ紀仁徳いさな等利紀允恭等利つゞま万九ノ九丁ゐにかき等良無廿ノ十七丁登利はなし十四ノ十四丁かくあれば一かたには定めがたし

○とり姓　土刀ヲ用フ　土理万三ノ廿六丁　刀理八ノ廿三丁　續日本紀懷風藻にも刀利とあり

○とさ國名　土都ヲ用フ　土佐古上紀天武万六ノ廿六　土佐郡都佐ニ坐神社神名帳（頭書）都の字を用ひたるは神名帳のみなれは猶の字を用ふへし本ノママ

○あと姓又近江ノ地名　斗刀都ヲ用フ　阿斗紀天武　阿都用明　阿刀紀天武神名帳姓氏錄

○あと跡　刀ヲ用フ　安刀万十五ノ十二丁

○いと糸又人名　同　摩伊刀ひめ古中孝元　伊刀万廿ノ卅六丁

○いと甚　同　伊刀万廿ノ廿九丁卅丁八ノ卅四丁　但十八ノ十九丁十九ノ廿九丁には登等をも用ひたり

○いと筑前ノ郡名　斗覩土ヲ用フ　伊斗古中仲哀　伊覩紀同　伊都紀神功　怡土郡万五ノ十二丁和名抄神名帳

○いこ紀ノ國郡名　刀都ヲ用フ　伊刀紀天武伊都和名抄

○かこ人名　都ヲ用フ　訓都紀天武

○ささ里　斗刀杜ヲ用フ　佐斗古下允恭佐杜紀安康　佐刀万十八ノ卅五丁五ノ廿一丁十九ノ廿六丁十四ノ卅五丁　一處も登筭などを用ひず

○つこ婁　刀ヲ用フ　いへ豆刀万十五ノ廿八丁　やま都刀廿ノ十丁

○はこ鳩　斗刀ヲ用フ　波斗古下允恭波刀紀同

○ふこ大　同　布斗まに布刀玉命古上賦斗途古中孝安布斗のりこ紀神代　敷刀のりこ万十七ノ五十二丁　布刀主若王命神名帳　古中懿德段に賦登麻和訶ひめともあり

○ほこ程　刀ヲ用フ　保刀万十四ノ十丁廿ノ十四丁

○云々こに云々せぬうちにと云ノ詞也　刀ヲ用フ　こひしなぬ刀爾万十五ノ卅三丁卅四丁　さよふけぬ刀爾十九ノ十四丁　よのふ

けぬ刀禰十ノ十六丁　わがかへる刀禰廿ノ卅三丁　刀禰たてめやも十四ノ九丁　うちにも刀にも十七ノ十四丁　にしのみまやの刀禰たてらまし十五ノ卅七丁　皆かくのごとし

【三言】

○あくと人名又地名　斗刀ヲ用フ　阿久斗ひめ古中安寧　阿久刀神社神名帳

○いとこ人ヲ親ミテ云詞也　刀徒ヲ用フ　伊刀古古上万十六ノ廿九丁　伊徒姑紀神功

○いとま暇　刀ヲ用フ　伊刀末万廿ノ四十八丁十五ノ廿一丁　神明帳に服部伊刀麻神社といふとあり

○かとり下總ノ郡名　刀ヲ用フ　可刀利万十四ノ十五丁

○ふなと神号　斗ヲ用フ　布那斗のかみ紀神代　久那斗延喜式

○とかぬ地名　斗刀ヲ用フ　斗賀野古中仲哀　刀我野津國風土記

○とかり　刀ヲ用フ刀何理神社『利鴈（トカリ）神社』神名帳

○となり 隣　同　刀奈里 万十四ノ廿一丁

○となみ 越前地名又姓　斗刀ヲ用フ　利波臣 古中孝靈 利波（トナミ）山 万十九ノ十八丁 刀奈美やま 十七ノ四十三丁 刀奈美のせき 十八ノ十七丁

○とひう 夷ノ地名　塗ヲ用フ　問菟、此ヲ云二塗毘宇（ト）一 紀齊明

○ながと 地名　刀ヲ用フ　奈我刀のしま 万十五ノ十二丁

○のりと 祝詞　斗刀ヲ用フ　詔戸（ノリト）上古 紀神代 能理斗 能理刀神社 神名帳 告刀（ノリ） 儀式帳　但万葉十七ノ五十一丁に等をも用ひたり

○つとめ 勤　刀ヲ用フ　都刀米 万廿ノ五十一丁

○みなと 水門　斗刀ヲ用フ　彌儺斗 紀武烈 美奈刀 万十四ノ十八丁

○まこひ惑　刀土ヲ用フ　訓惑ヲ云ニ麻刀比ト麻土比丹後風土記

○をこら人名　刀ヲ用フ　乎刀良万廿ノ廿四丁

【四言】

○ころゝきトロケル也　斗ヲ用フ　斗呂呂岐古上

○たふこし貴　斗姤刀ヲ用フ　多布斗久古上　多輔姤句紀神代　多布斗斯万九ノ七丁　多不刀久十八ノ廿二丁佛足石歌

○たかまこ大和ノ地名　刀ヲ用フ　多可麻刀万廿ノ十丁六十一丁

○まこかた伊勢ノ地名　同　圓方万一ノ廿六丁　麻刀方神社神名帳　此二條を考ふるに月のまとかなるなどいふ

＝とにも斗刀などを用ふべくおもはる

○おほきこ地名　姤ヲ用フ　於朋者姤紀崇神

【度】濁音

○某こ處也　度ヲ用フ　くみ度古上　かは度万五ノ卅一丁　たち度十四ノ卅二丁　ねや度九ノ卅丁　かま度同丁　ね度十四ノ十五丁　や度十七ノ卅九丁十九ノ四十八丁　しま度十四ノ十二丁　此類ひのと准らへて皆度の字を用ふべし

○云々こ利也　度ヲ用フ　神度劔古上　やまたちの加度万六ノ廿八丁　こゝろ度十七ノ廿七丁十九ノ十七丁

○某こ戸　渡度ヲ用フ　この渡紀崇神　この度万十八ノ卅六丁

【ご言】

○さご國名　度ヲ用フ　佐度古上紀神代

○うご駿河ノ郡　度ヲ用フ　有度郡万廿ノ廿丁

○かご門　度ヲ用フ　可度万十四ノ廿丁廿ノ四十丁十九ノ廿六丁　美可度十五ノ廿丁

○かご角　度ヲ用フ　加度万六ノ廿八丁

○やご屋處　度ヲ用フ　屋度万十七ノ十二丁十八ノ卅八丁十九ノ四十八丁廿ノ十二丁四十五丁　十五ノ四丁に杼を用ひたるは正しからず又やどなどいふ言には杼を用ふる所なり例イこは杼の部に見ゆ

○たご伊勢ノ地名　度ヲ用フ　多度神續日卅七神名帳　この外のかな書を見あたらず

○云々ごく着也　同　度度久ゝたま『かも度久しま古上

○某ごちドウシと云意也　度奴ヲ用フ　うま人奴知『いざこ奴池功紀神　おもふ度知万十七ノ卅六丁卅七丁五ノ十五丁十九ノ廿丁　たびわかる度知十九ノ廿八丁

【三言】

○くみご隱處　度ヲ用フ　久美度古上

○こごゞ　同　許等度紀神代

○さかこ姓　同　尺度万十六ノ十六丁 續日卅六

○さごふ　さはまに迷フ惑又は佰問の意與　度ヲ用フ　佐度波須万十八ノ廿七丁　左度はせる同廿五丁

○つごひ集　度ヲ用フ　都都閇知泥神古上　都度比万十八ノ廿四丁 廿ノ十七丁

○たごき手着　同　多度伎万十五ノ卅八丁 十五ノ卅丁

但し五ノ卅九丁に多杼伎十七ノ巻に三處多騰伎ともあれど今は度の字によりつこは『タヅキともいへる事なり凡て物の着ツク事を某どくといふには度の字を用ふる例なり神代紀に『かも豆句しまとあるを古事記には『かも度久しまとあるにてしらる

○みかご朝廷　度ヲ用フ　美可度万十五ノ廿丁

○たごり　度ヲ用ツ　い多度利よりて万五ノ九丁

【四言】

○しなごみ神号　度ヲ用フ　大科度美神古上

○つまごり トルハ取也　怒ヲ用フ　つま怒唎 紀繼体

○ゆらこみ 人名　度ヲ用フ　由良度美 古中應神

【六言】【七言】

○いしこりごめ 神号　度ヲ用フ　伊斯許理度賣 古上紀神代

○かむこのつるぎ 劔名　同　神度劔 古上

【登】

○云々こ 辭也　登澄等得苔ヲ用フ　かぜふかむ登ぞ 古中神武 あり登きこして 古上 いきらむ苔『いこらむ苔 紀仁德 いる澄いはずや 万二ノ廿五丁 かくしもがも等 五ノ十丁 ひろし等いへご 同廿九丁 たま登みるまで 十七ノ十一丁 ふるし登ひこはおもへれご 同十二丁　猶おほし但し万葉十ノ四十二丁に『たま斗ぞ見ゆる十五ノ廿五丁ゆかむ士するに二ノ廿三丁『かゝらむ刀かねてしりせばなどあるは正しからし

敎云二ノ廿三寛永版は「乃」にて「ト」と傍訓す

【二言】

○こも雖 登等苔得ヲ用フ いりをり登母古中神武いりをり苔毛紀同ちりぬ得母万五ノ十五丁 あり登母や

十七ノ九丁 よこむ等毛五ノ廿一丁 猶おほゝ但し十四ノ卅一丁に『あやは刀文とあるは正しからじ

○こも舳 登等ヲ用フ 等母万十九ノ卅九丁 登毛十四ノ卅三丁

○某こも等 登等ヲ用フ うかひが登母古中神武万十七ノ四十五丁 うかひが等茂紀同 しづをの登母万十八ノ十二丁

○こも倶又友 登等ヲ用フ 等母にしつめば古下仁徳 うかひ等母なべ万十九ノ十二丁 登母いざなひて十七ノ四

十五丁 日月こ登母に十九ノ卅九丁

○こみ地名 登ヲ用フ 登美のながすねびこ古中神武

○こみ狩スル時跪ノ行方ヲ見ル人ヲ云 登ヲ用フ 跡見万六ノ十四丁 跡は登のかり字なり

○こか咎 登ヲ用フ 登賀米古上万十八ノ卅五丁 登我万十四ノ十丁

○こき時　等登ヲ用フ　等枳紀允恭万十八ノ卅八丁登吉十四ノ八丁

○こき「こく解　登等ヲ用フ　登かねば古上等枳さけて紀允恭ひも登伎さけて万十四ノ廿丁　万葉十七ノ十七丁に刀氣てとあるは正しからず

○ここ床　登等ヲ用フ　登許古中景行等許万十四ノ十八丁五ノ廿八丁

○ここ常　登等ヲ用フ　登許よ古下雄畧等虚しへ紀允恭万十八ノ廿六丁等許なつ万十七ノ四十丁　等許やみ十五ノ卅三丁登許はつはな十七ノ卅一丁

○ここ底　登ヲ用フ　訓レ常ヲ云ニ登許ト古上

○ここ人名　得ヲ用フ　得許紀天武

○こし年　登得等ヲ用フ　登斯古中景行得之万五ノ十六丁等思十四ノ廿六丁

○こみ富　登ヲ用フ　登陀流古上

○こひ 飛 等登ヲ用フ 等弭紀仁徳万十五ノ十二丁卅四丁ノ登眦万十七ノ廿七丁

○こよ 豐 登ヲ用フ 登輿みき古上等豫ほき紀神功

○こり 鳥 登鄧等苔ヲ用フ さぬつ登理『にはつ登理古上おきつ鄧利紀神代苔利神功もゝ等利万五ノ十七丁こぶ登利十四ノ八丁 一處も斗などを用ひたる事なし

○おと 弟 登ヲ用フ 淤登古上紀神代

○おと 音 等登ヲ用フ 淤等なひ紀神代 於登万十四ノ卅三丁

○かと 地名 等ヲ用フ 肝等紀安閑 但し天武紀に訶都とかける人の名もあり

○こと 琴 登等ヲ用フ 許登古下仁德苣等紀應神繼体万五ノ十二丁

○こと 言 同 許登古下允恭万十四ノ廿五丁 去等紀同

○こと 事 同 かたり碁登古上いかにふ居等ぞ紀繼体 おなじ許等万十五ノ卅七丁 たゆる許登なく同卅七丁 猶

おほし

○ここ巽　登等ヲ用フ　かみの碁登古中應神かみのみの語等紀同なるさはの其登万十四ノ四丁

○云々ごこ毎　等ヲ用フ　こき其等に万廿ノ十四丁もの其等に同廿五丁

○この殿　等ヲ用フ　みわの等能こ紀崇神等能こ万十八卅六丁等能のわくこ十四ノ十七丁

○のこ國名又地名　登ヲ用フ　能登紀齊明万十ノ九丁十七ノ四十六丁

○ひこ人　登等得苔ヲ用フ　比登古下雄略万五ノ十九丁比苔紀神武神功比得万五ノ廿丁比等十五ノ卅四丁さこ毘登古中允恭さこ弭等紀安康

○ほこ陰處　登ヲ用フ　富登古上古中神武

○もこ本又許　登等ヲ用フ　かざ母登古中神武ひこ母登すゝき古上母等つひこ万廿ノ四十三丁この母登山十四ノ廿四丁

【三言】

○ときは常磐　得等ヲ用フ　得伎波万十七ノ四十二丁　等吉波十八ノ十一丁

○とかけトヲカケ也　登ヲ用フ　山の跡陰万十ノ四十丁

○とこよ底闇國　登等ヲ用フ　登許余古中仲哀　等虚豫紀神功万五ノ廿三丁

○ところ冬薮蕷　登ヲ用フ　登許呂づら古中景行

○ところ處　等ヲ用フ　等己呂万十九ノ四十七丁

○とゞろ物ノ音也　登等ヲ用フ　登杼呂こし古上　等騰呂万十八ノ廿七丁

○とゞめ留　等ヲ用フ　等杼米万十四ノ三丁十七ノ四十五丁廿ノ廿七丁

○とほし人名　登ヲ用フ　登富志郎女古中應神

○こほし遠　登等得ヲ用フ　登富登富斯古上　等保ひこ紀仁徳　得保つひこ万五ノ廿四丁

○こほり通　登等ヲ用フ　登富禮古下允恭　等寶利万十九ノ十三丁

○こまり泊　同　のこの等麻里万十五ノ廿一丁　たびゆく船の登麻利つげむに同九丁

○こまり留　登ヲ用フ　登麻良ぬ万十九ノ十三丁

○こもし乏　登等ヲ用フ　登母志古下雄畧万八ノ卅六丁　等毛思吉万十四ノ廿八丁

○こよみ動騒　登等ヲ用フ　登與牟古上古下允恭　等豫牟紀安康　登與美万十四ノ廿二丁

○こを丶タワミ也　登ヲ用フ　登遠遠古上

○こをむタワム也　等ヲ用フ　等乎牟万十九ノ卅丁

○あこり鵩子鳥　等ヲ用フ　阿等利万廿ノ廿丁

○いとふ詠 登等ヲ用フ 伊登はねご万十七ノ九」伊等は之万五ノ十丁

○ことごと人名又神名 登等ヲ用フ 許碁登臣古下反正許語等むすび紀神代

○ことゞ 等ヲ用フ 許等度紀神代

○しとゝ鳥名 二ツトモニ 登苔ヲ用フ 斯登登古中神武芝苔苔紀天武

○しもと楉 等ヲ用フ 之毛等万十四ノ廿四丁

○のとか地名 登ヲ用フ 能登香山万十一ノ七丁

○のとせ地名 同 能登瀬川万三ノ廿六丁

○ひとつ 登苔等ヲ用フ 比登都古上毗苔徒紀神武 比等ころ万十九ノ廿五丁

○ひとり獨 等ヲ用フ 比等利万五ノ十五丁

○ふひと人名又姓　同　不比等紀持統

○みこと命又尊　登等ヲ用フ　からの美許等『つまの美許登古上美擧等紀神代ち、の美許等は、の美己等万十九ノ十四丁

○もとめ求　等ヲ用フ　母等米万十七ノ四十七丁

○もとなメツタニといふ事　登等ヲ用フ　母等奈万五ノ八丁　母登奈見えつ、十四ノ廿一丁　いめには母等奈十七ノ卅三丁かけつ、母等奈十四ノ十三丁

○やまと國名　登苔等ヲ用　夜麻登古上野磨等紀雄畧　夜莽苔仁德

○をとこ男　等ヲ用　袁等古古上紀神代万廿ノ十九丁

万葉五ノ九丁に刀を用ひたるは不正なるべし

○まこと誠　登ヲ用フ　麻許登万十四ノ九丁

○たもと袂　同　多母登 万十四ノ十九丁

○とぶさ木末也　同　登夫佐 万十七ノ四十九丁

【四言】

○とゝのへ整　登等ヲ用フ　等登能倍 万十八ノ卅九丁 廿ノ十八丁

○とりやま人名　登苔ヲ用フ　登理夜痲 古下仁徳 苔利夜莽 紀同

○とものを伴長　登等ヲ用　登毛乃乎 万十七ノ四十九丁 等母能乎 十八ノ卅三丁

○ともしび燈　同　登毛之備 万十八ノ十丁 等毛之備 十五ノ十一丁

○とやのぬ地名　等ヲ用フ　等夜能野 万十四ノ廿九丁

○あぎとひ　登ヲ用フ　阿藝登比 古中垂仁

○あらしを人名　等ヲ用フ　つぬか阿羅斯等紀垂仁

○ことごと悉　ニツトモニ登鄒等ヲ用フ　よの許登碁登古上よの據鄒馭鄒紀神代くぬち許等其等万五ノ六丁

○ことわり理　等ヲ用フ　許等和利万十九ノ廿九丁

○ことゝひ言語　登等ヲ用フ　眞事登波牟『直事登波受古中垂仁　許等登波受万十四ノ卅一丁　許等等波奴九ノ十一丁　又廿ノ廿二丁には己等刀波牟ともあり

○なかとみ中臣　等ヲ用フ　奈加等美万十七ノ五十一丁

○のとりだ地名　登ヲ用フ　能登利田紀神功

○ほとほと殆　登等ヲ用フ　保等保登万十五ノ卅七丁

○もとほる同　同　はひ母登ほろふ古中神武ほき母登ほし同仲哀　茂等倍屢紀神武　た母登保里万十七ノ十八丁十八ノ

七丁 己の母等里保の十九ノ廿一丁

【五言】

○こゝこほる滞 等ヲ用フ 等騰己保里万廿ノ卌四丁

○このくもり棚曇 同 等能具毛利万十七ノ四十五丁十八ノ卅三丁

○こほしろし大也 登ヲ用フ 志(ママ)登保之呂思万三ノ廿九丁十七ノ四十四丁

○こりのをか地名 等ヲ用フ 等里のをか万十四ノ十九丁

○あかみこり年号 苔ヲ用フ 阿訶美苔利紀天武

○いこのきて 等ヲ用フ 伊等能伎提万五ノ卅丁卅七丁十四ノ卅二丁

○いこしわけ人名 登ヲ用フ 伊登志別古中垂仁

○おほこれる葛などの延也 登ヲ用フ 於保登禮流万十八ノ卅四丁

○からこまり筑紫地名　等ヲ用フ　可良等麻里万十五ノ廿丁

○ほこゝきす鳥名　登等ヲ用フ　保等登藝須万葉集中

【六言】

○ひこごのかみ人兄　登ヲ用フ　比登誤迺伽彌紀神武

【杼】濁音

○云々ご又ごも雖　杼騰迺耐ヲ用フ　きこえしか杼母古中應神きこえしか迺紀同人はいへ耐紀神代やへのこみかきかゝめ騰謀紀武同きぬはあれ杼万十四ノ三丁かざせれ杼五ノ十八丁猶おなじ但し万葉　十八ノ九丁にみれ度あかず四ノ五十八丁に「つかへめ利ト などあるは不正なり又廿ノ卅二丁に特の字を用ひたるは杼の字の誤ならん歟

【二言】

○某こも等也　杼藤ヲ用フ　己杼母古中應神あまをこめ杼母万十五ノ十五丁　己藤母五ノ八丁

○某こり島　杼騰耐廼ヲ用フ　知杼理：『そに杼理古上もち杼理古中應神ち耐理紀神代にほ廼利紀神功や

ま杼里万十四ノ廿一丁　もち騰利五ノ七丁

○あご何ト云ニ同シ　杼ヲ用フ　阿杼万十四ノ八丁十五ノ十五丁

○なご何　杼騰ヲ用フ　那杼古中神武奈騰万四ノ十六丁

○ねご人名　杼ヲ用フ　泥杼王古下宣化

○のご呑門　杼ヲ用フ　能杼万五ノ卅丁

○ほご人名　杼ヲ用フ　富杼紀持統

○よご水ノ深處又地名　杼騰藤ヲ用フ　與騰『余騰『余藤万三ノ廿九丁余杼む一ノ十七丁　與杼神社神名帳

【三言】

○こごろ物音　杼騰ヲ用フ　登杼呂こし古上等騰呂万十八ノ廿七丁

○こゞめ留　杼。騰ヲ用フ　等杼米万十四ノ三丁　等騰米十七ノ四十三丁九ノ卅七丁

○云々ことほき遠　杼騰ヲ用フ　さこ騰保美万十七ノ卅五丁　みちはし騰保久同廿二丁　みちをた騰保蘊同廿三丁廿丁さ杼抱美十四ノ十五丁いへ杼保久十五ノ廿九丁　此外をも准らへ知るべし

○なこり長閑　杼ヲ用フ　那杼理古上

○いろご弟　同　蠅伊呂杼古中安寧

○こごき讒時　騰ヲ用フ　許騰伎万十四ノ廿六丁

○そほご神号　同　山田之曾富騰古上

○のごか長閑　杼ヲ用フ　能杼万二ノ卅三丁

○ほごろ雪ノフルニ云詞　同　保杼呂万八ノ五十四丁十ノ六十丁

○ほごく解也　同　保杼毛ごも万四ノ五十七丁

○みごり緑　騰ヲ用フ　美騰里こ万十八ノ卅二丁

○めごり人名　杼廼ヲ用フ　賣杼理古下仁徳謎廼利同紀

○やごり宿　杼ヲ用フ　夜杼里万十四ノ十七丁十五ノ十四丁十六丁十七丁廿四丁屋杼禮里之一ノ九丁屋杼禮流十五ノ卅六丁　此を用ひたる事一處もなし

○をごり躍　杼騰ヲ用フ　乎杼利万五ノ四十丁乎騰流十九ノ十丁

○をほご人名　杼ヲ用フ　袁本杼命古下武烈

【四言】

○ふなごも船舳　騰ヲ用フ　舳騰毛万十九ノ廿六丁

○なごまろ人名　杼ヲ用フ　奈杼麻呂万廿ノ五十五丁

○あごもひサソヒ立ル意也　騰ヲ用フ　安騰母比万九ノ廿八丁廿ノ十八丁二ノ卅四丁

○おほほご人名　杼ヲ用フ　意富本杼古下允恭

○こきごき時々　騰ヲ用フ　等伎騰吉万廿ノ十六丁

○をこひめ人名　杼ヲ用フ　袁杼ひめ古下雄畧

【五言】

○こゞこほる濡　騰ヲ用フ　等騰己保里万廿ノ卅四丁

○いきごほる憤　廼騰ヲ用フ　異枳廼倍呂之紀神功　伊伎騰保流万十九ノ十一丁

○よのほごろ夜ノ明方也　杼ヲ用フ　よの穂杼呂万四ノ五十三丁八ノ三十六丁

【六言】

○おごやまつみ神号　臢ヲ用フ　淤騰山津見神古上

「な」「に」「ぬ」「ね」「の」　なにのかなは用ひざま定りなければあけず

ぬ之部

【怒】

○ぬ野　怒努弩ヲ用フ　たかさじ怒古中神武さかむのを怒同景行　さ怒つこり古上　みえし怒古下雄略　かつ怒

まつろは努同中景行

古中懣神紀同みえし弩紀天智　あは弩皇極　はるの努万五ノ十七丁　余思努万十八ノ廿三丁　たかまこの努廿ノ六十一丁二丁

猶おほし古事記には怒をのみ用ひて奴をば用ひず書紀万葉には奴濃などを用ひたる處もあれど今は古事記によりて怒と定めつ

【二言】

○しぬ篠　怒ヲ用フ　阿佐士怒はら古中景行

○しぬ　怒努ヲ用フ　こゝろも之努に万十七ノ卅三丁四十一丁卅七丁三ノ十八丁　こゝろも四怒に万十一ノ四十一丁　あきのはを之努におしなべ十ノ五十二丁　十九ノ十二丁に奴を用ひたるは正しからず

○あぬ　姓　努ヲ用フ　安努君万十九卅八丁

○うぬ　姓　努ヲ用フ　宇努首万六ノ廿丁

○さぬ　地名　努ヲ用フ　左努やま万十四ノ廿丁　佐野のふなはし十四ノ十四丁

○つぬ　地名又人名　怒努ヲ用フ　都怒郎女古下反正　都怒山臣古中孝昭　都努の松はら万十七ノ八丁　孝元紀に都奴臣とあるは怒の字の誤歟

○ぬじ　虹　努ヲ用フ　努自万十四ノ十三丁

【三三言】

○からぬ船名　怒ヲ用フ　加良怒古下仁徳紀應神

○しぬぐ凌　努弩ヲ用フ　之努藝万十九ノ卅七丁廿ノ十一丁　師弩藝八ノ四十八丁

○しぬぶ忍　怒努ヲ用フ　斯怒波米古下允恭　之怒比万十七ノ四十二丁　斯努比十四ノ十五丁十九ノ十五丁廿ノ十四丁　師弩波世八ノ五十一丁　猶おほし十八ノ卅一丁に之奴比廿ノ卅五丁に志濃比とある正しからじ此外奴をもあまた處に用ひたれども古事記によりて怒と定めつ

○しぬにシトトと云同し　皆怒ヲ用フ　之怒怒にぬれて万十ノ七丁

○たぬし樂　怒努ヲ用フ　多怒斯古下仁徳古中仲哀　多努之万五ノ十四丁十七ノ九丁廿ノ十二丁十八ノ十四丁　書紀に濃万葉十八ノ八丁に奴を用ひたるは正しからず

【四言】

○たくつぬ白の枕詞　怒ヲ用フ　多久豆怒古上万廿ノ卅六丁

○いぬひめ神号　同　伊怒ひめ古上

○にぬくも布雲也但東語　努ヲ用フ　爾努くも万十四ノ三丁廿七丁

○ぬえくさ萎草　同　怒延くさ古上

○ふぬつぬ神号　二ツトモニ同　布怒豆怒神古上

【五言】

○かみつけぬ國名　努ヲ用フ　可美都氣努万十四ノ十二丁

○しもつけぬ國名　同　之母都家努万十四ノ十四丁

○つぬさはふ岩の枕詞　同　兎怒さはふ紀仁德

繼体紀に奴を用ひたるは不正歟

【奴】

○云々ぬ辭也　奴濃農ヲ用フ　われはやゑ奴古中神武ひこしり奴べみ古下允恭ちるべくなり奴万五ノ十九丁

いたくくだち奴同十八丁われはし奴べく十八ノ十六丁みふねはて農こ五ノ卅二丁こゝろはをえ農同卅八丁

猶おほし書紀万葉に怒努を用ひたる處もあるは正しからず

○云々ぬ不の意也　濃奴ヲ用フ　かゝ濃くみかき紀武烈きゝてめにみ奴万十八七丁きこえ奴かも八ノ四十九丁

まつろは奴人古中景行

○云々ぬノウの約ヲしへに也（ママ）　奴濃ヲ用フ　はら濃知紀神功く奴知万十七ノ卅九丁九ノ六丁こ奴禮十七ノ廿一丁卅六丁十八ノ廿八丁九ノ十六丁

○ぬ寐　奴ヲ用フ　奴禮は万十五ノ卅二丁さ奴禮ば同十二丁

【二言】

○ぬき貫　奴農ヲ用フ　農紀天智　農部すこも武烈まかぢ奴伎万十五ノ九丁たまに奴伎つゝ十八ノ廿八丁

○ぬぎ『ぬぐ 脫　奴ヲ用フ　奴岐古上万五ノ七丁

○ぬさ 幣帛　同　奴佐古中仲哀万十三ノ六丁十七ノ四十四丁廿ノ卅二丁　廿ノ卅五丁ニ怒ヲ用タル不正

○ぬし 主　奴農ヲ用フ　おほくに奴斯古上　おほもの農之神紀崇　奴之万十八ノ卅六丁　農斯五ノ廿六丁

○ぬて 鈴　奴ヲ用フ　奴氐古下顯宗紀同

○ぬひ 縫　同　奴幣流万十五ノ卅四丁　奴波牟十八ノ卅五丁

○ぬえ 鳥名　同　奴延古上万五ノ卅丁一ノ八丁十七ノ卅二丁

阿具奴壆古中熊神

○ぬま 沼　同　水奴麻万十九ノ四十一丁　こもり奴十七ノ十六丁　奴麻十四ノ廿九丁

○ぬり 塗　同　しら奴里万十七ノ四十五丁

（附箋）

○云々ぬら 辭也　奴ヲ用フ　うつろひ奴良牟万十七ノ十五丁　よはふけ奴良之同十九丁　こし

のへ奴良久（十五ノ卅丁） まちこひ奴良武（同丁） 猶おほし一處モ怒ヲ用ひず

○云々ぬら（辭也） 奴ヲ用フ すきば奴流（古下雄畧）みつゝそき奴流（万十四ノ卅五丁） ちこせやい奴流（同廿一丁）なり奴流（十八ノ十丁） 猶おほし

○云々ぬれ（前ニ同シ） 奴ヲ用フ なり奴禮ば（万廿ノ四十三丁） ふり奴禮ご（十七ノ十二丁） さ奴禮ば（十五ノ十五丁）き奴禮ごも（同廿丁） 猶おほし 廿ノ廿二丁に伊努禮どもとあるは正しからず

○云々ぬる『ぬれ（上ヨリイヒツヽクルぬ也） 奴ヲ用フ すきは奴流（古下雄畧）

○ぬる（雨などにぬれる也） 奴濃ヲ用フ きぬ奴禮にけり（万十七ノ四十五丁） 奴禮ぬごも（十五ノ十八丁） そでなき奴良之（廿ノ卅七丁） 濃禮奴（十九ノ十二丁）

○ぬるぬる〳〵（スル也） 奴ヲ用フ 奴流奴流（万十四ノ八丁） 奴禮つゝ（同十三丁）

○かぬ（兼） 同 おくを可奴加奴（万十四ノ廿四丁）

ワカクロカミヲヒキ奴良思 十一ノ廿三丁

○きぬ衣　奴農ヲ用フ　岐奴古中景行下雄畧 万十四ノ二丁　岐農紀景行

○くぬ人名　奴ヲ用フ　久奴王古中應神

○いぬ犬　同　伊奴万五ノ廿八丁　こは一處のみ也

○まぬ人名　同　麻奴王古下欽明

○みぬ國名　濃ヲ用フ　美濃古上紀天武 万六ノ卅九丁　但し古事記景行段に三野國万葉十三ノ廿九丁に三野王とも
あれば怒を用ふるも違ひにはあらじ

○さぬ地名　農ヲ用フ　佐農のをか万七ノ卅四丁

○ちぬ河内ノ地名　奴ヲ用フ　智奴王古下敏達　陳奴万七ノ十二丁 九ノ卅五丁　万葉十九ノ廿六丁九ノ卅六丁には努
をも用ひたれども今は古事記によりつ

【三言】

○ぬすみ 盜　奴農ヲ用フ　奴須美古中崇神 農珠まく紀同

○ぬなは 蓴　奴ヲ用フ　奴那波古中應神

○ぬりて 木名　農ヲ用フ　農利涅紀崇峻

○つぬか 越ノ地名　奴ヲ用フ　都奴賀古中仲哀

○みぬめ 地名　奴ヲ用フ　美奴面万十五ノ十二丁

○こぬみ 地名　同　許奴美のはま万十一ノ卅九丁

○しなぬ 國名又地名　濃ヲ用フ　信濃万十四ノ三丁 信濃のはま十七ノ四十八丁

○なぬか 七日　奴ヲ用フ　奈奴可万十七ノ四十六丁

【四言】

○おみつぬ神号　奴ヲ用フ　淤美豆奴古上

○しらぬひ筑紫ノ枕詞　奴農ヲ用フ　之良奴日万廿ノ十八丁斯良農比五ノ五丁

○ぬりのみ人名　奴ヲ用フ　奴理能美古下仁德

○ぬばたま黒ノ枕詞　奴農ヲ用フ　奴婆たま古上万十五ノ廿九丁　農ばたま紀雄畧

○つぬさし地名　奴ヲ用フ　都奴娑之紀顯宗

○くぬすぬ神号　二ツトモニ奴ヲ用フ　久奴須奴神古上

○わかぬけ人名　奴ヲ用フ　和訶奴氣王古中成務

【六言】

○やしまじぬみ神号　奴ヲ用フ　八島士奴美神古上

ねの部

【禰】

○すくね宿禰　禰ヲ用フ　建内宿禰『都久宿禰古中孝元　武内宿禰紀仁徳　木莵宿禰履中　山部宿禰万三ノ廿七丁

大伴宿禰同五十五丁　但し允恭段の歌には須久泥ともあれども宿禰とかく時には禰の字を用ふる例なり

のの部

【能】

○のこ國名　能ヲ用フ　能登紀齊明万十七ノ四十九丁

此外にものととつゞく地名などには皆能を用ひたり万葉三ノ廿六丁に能登湍川十一ノ七丁に能登香山などあり

はの部

【破】

○ふは美濃ノ郡名　破ヲ用フ　不破紀天武万二ノ卅四丁九ノ廿七丁姓氏錄

【波】

○あは四國國名　波ヲ用フ　安波万六ノ卅丁

【房】

○あは東ノ國名　房ヲ用フ　安房万九ノ十七丁神名帳和名抄

【薄】

○はだれ雪ノフルニ云フ詞　薄ヲ用フ　薄太禮万十ノ卅八丁六十丁六十二丁八ノ十四丁　これらは用ふる假字には雪霜などのふりたるさまをしらせたるなり此將本ノママも万葉にはをり／＼見ゆ

ひの部

【斐】

○ひ 物ノかわく也　悲非飛ヲ用フ　しほ非 万十五ノ廿八丁同六丁 しほ悲 十八ノ六丁十七ノ七丁十四ノ廿九丁 わがなくなみだいまだ飛なくに 五ノ六丁　一處も比＝を用ひず

【二言】

○かひ 神号又國名人名　斐ヲ用フ　甲斐辨羅神 古上 甲斐 古中景行紀同万三ノ廿七丁 甲斐郎女 古下反正 甲斐奈神社 神名帳

但し雄畧紀の歌には何彼とかけりこも違へるにはあらず又山の峽には万葉に『可比とありこは比の部に見ゆ

○こひ 戀　斐非悲飛ヲ用フ　古斐 古上 古姑悲む 紀齊明 孤悲 万十七ノ七丁十七ノ十六丁 古非 十四ノ十六丁五ノ廿四丁十五ノ七丁丹後風土記 古飛 五ノ十五丁 うら呉非 十七ノ廿九丁 した呉非 同廿三丁

比＝の字をば用ひぬ例なり万葉廿巻に已比とあるは正しからず又万葉には上に孤の字を用ふれば必ス下に悲

の字を用ひたり十ノ十六丁に『孤戀』とあるは悲の字の誤りなるべしと契沖のいへりつるよくかなへり

○おひ 生　斐ヲ用フ　いくみだけ淤斐『たしみだけ淤斐 古下雄略 淤斐だてる 古下仁徳 於非たち 万十八ノ廿七丁 於非 十四ノ十九丁　比を用ひたるは一處もなし

○しひ 姓　斐ヲ用フ　志斐 万三ノ十二丁 姓氏録

○ひだ 國名又姓又ユ（ママ）也　同　斐太ひこ 万七ノ十五丁十一ノ廿七丁 斐太のおほくろ 十六ノ廿一丁 斐太のほそえ 十二ノ廿七丁 斐太臣 姓氏録 斐太神社 神名帳　續日の廿巻に斐太都といふ人の名も見ゆ又今の世に飛彈とかくもいにしへにかなへり

【三言】

○おひし 大石　斐ヲ用フ　意斐志 古中神武

○こじひ 人名　悲ヲ用フ　古慈悲 万十九ノ四十一丁廿ノ五十一丁 續日十八

○ひゐね　斐被ヲ用フ　斐恵泥古中神武被恵禰紀同

○たちまひね人名　斐ヲ用フ　多遅摩斐泥古中應神

○たちまのあひ人名　斐ヲ用フ　たちまの呰斐古中應神

【肥】

○ひ火　肥ヲ用フ　かきろ肥古下履中もゆる肥古中景行

○ひ國名　同　肥國古上

○ひ出雲ノ地名　同　肥河古中景行　古中垂仁

【五言】

○ひながひめ人名　肥ヲ用フ　肥長ひめ古中垂仁

【比】比の字は斐肥などにくらふればいとひろく用ふるかなゝり

〇ひ日　比卑ヲ用フ　あさ比古上ゆふ比古下雄畧比のみこ古中景行いかし卑紀皇極はる卑万五ノ十八丁　古事記應神段に『ま肥にはあてずとあるは正しからず

〇ひ檜　比避ヲ用フ　避のいたミ紀繼体

〇云々ひ体言を活用シテ云フひ也　比ヲ用フ　ゑま比『おそふら比古上まもら比古中神武みなぎら毗紀齊明すま比万五ノ廿六丁かたら比同九ノ十八丁つゞしろ比同廿九丁うちすゝろ比て同丁きたちよば比ぬ同卅丁なげか比同卅八丁猶おほし皆同し事なり

【二言】

〇ひか地名　避ヲ用フ　避箇のをさか紀仁德

〇ひき『ひく『ひけ引　比ヲ用フ　比許づらひ『比氣こり古上比伎のぼり万廿ノ十八丁比氣ばたえ

すれ十四ノ十二丁

○ひげ鬚　比ヲ用フ　比宜万五ノ廿九丁

○ひこ彥　比避ヲ用フ　あぢしきたか比古泥古上うさつ比古古中神武あちすきたか避廰禰紀神武　比古

ほし万十五ノ十八丁　猶おほし皆かくのごとし

○ひざ膝　比ヲ用フ　比射万十四ノ十九丁

○ひし菱　同　比辭紀應神

○ひし物なる音也　同　比師万十三ノ十四丁

○ひた地名　同　比多かた万十四ノ卅四丁

○ひた一向也　同　毗陀を紀神代　比多てり万十八ノ十一丁

○ひぢ泥　同　比治万十五ノ卅一丁

○ひつ櫃　同　小竹櫃（シヌヒノ）万一ノ八丁　しぬびのひには比を用ふる例なり

○ひこ人　比譬臂必ヲ用フ　比登古下雄畧紀神武万五ノ十九丁十五ノ卅四丁　譬苔紀神功　臂

○ひえ稗　比ヲ用フ　比要万十二ノ十八丁

○ひづ濕　同　比豆知万十七ノ廿七丁

○ひな夷　比避ヲ用フ　比那古下雄畧万十七ノ廿二丁　避奈つめ紀神代

○ひは弱　比ヲ用フ　比波ぼそ古中景行

○ひみ越中ノ地名　比ヲ用フ　比美のえ万十七ノ四十六丁

○ひめ女ノ稱　比賣嬪ヲ用フ　神屋楯比賣古上　うさつ比賣古中神武　比賣こその社古中應神紀垂仁　いはの臂謎紀仁德　たらし比咩万五ノ十三丁　さよ嬪面同廿五丁

○ひめ古事記傳曰樋目の意歟　比ヲ用フ　氷目矢古上比比米かふら万十二ノ卅丁

○ひも紐　比臂ヲ用フ　臂毛紀允恭　比毛万十四ノ五丁　廿ノ廿五丁に非を用ひたるは不正

○ひら平　比ヲ用フ　よもつ比良さか古上紀神代　比良せ万十四ノ卅二丁

○ひる蒜　同　比蘆紀應神

○ひる晝　比ヲ用フ　比流古中神武万廿ノ廿七丁

○ひれ領巾　比必ヲ用フ　比禮古上紀欽明万五ノ廿四丁　必禮万五ノ廿四丁

○ひろ廣　比ヲ用フ　比呂理古下仁德　比呂はし万十四ノ卅丁

○ほひ神号　比卑ヲ用フ　菩比命『菩卑能命古上

○こひ伊豆地名　比ヲ用フ　刀比のかふち

○こひ問　同　斗比しきみはも古中景行斗比たまへ古下仁德ゆふけ刀比万十七ノ廿三丁　登比しこらはも廿ノ四十三丁

○にひ新　比ヲ用フ　尒比ばり古中景行紀同爾比なへ古下雄略爾比た万十四ノ十二丁　尒比くさ同十九丁

○はひ這　比臂ヲ用　波比古中神武万十四ノ十六丁　波臂紀同

○まひ賄　比ヲ用フ　麻比万廿ノ四十二丁

○まひ舞　同　麻比古下雄略

○めひ越中ノ地名　同　賣比のぬ万十七ノ四十八丁　賣比かは同四十九丁

○よひ宵　比臂必ヲ用フ　豫臂紀允恭　許余比万十八ノ十二丁十四ノ十九丁廿ノ廿一丁　己余必十四ノ卅四丁

○ゑひ醉　比ヲ用フ　惠比古中應神

○あひ合又逢　比必ヲ用フ　阿比まくら古中應神紀同　安比みむ万十四ノ四丁　安必みて同五ノ八丁

○いひ飯　比ヲ用フ　伊比紀推古武烈　加例比万五ノ廿八丁

○いひ云　比賓ヲ用フ　伊比紀雄略万五ノ十三丁　伊賓万五ノ廿四丁

○おひ屓　比ヲ用フ　於比万五ノ四十丁

○おひ追　同　意比万五ノ九丁

○かひ貝　同　可比古下允恭万廿ノ卅三丁卅八丁

○かひ山ノ峽也　同　やまの賀比古下雄畧万十七ノ十五丁同廿五丁

○かひ養　比譬ヲ用フ　宇加比古中神武宇介譬紀同

○くひ杭　比ヲ用フ　久比古下允恭

○けひ越前ノ地名　同　氣比大神古中仲哀氣比のかみ万十五ノ八丁

○こひ乞　同　許比万廿ノ五十九丁五ノ四十丁七ノ四十六丁

○しひ椎　同　思比万十四ノ廿四丁廿五丁

○そひ地名　同　いかほろの蘇比万十四ノ十三丁廿五丁

○そひ泝　同　い蘇比をるかも古中應神かは泝比紀顯宗

○もひ椀　同　たま暮比紀武烈

【三言】

○ひかり光　比ヲ用フ　比加流古下雄畧比可利万五ノ廿丁

○ひかげ蘿　同　比舸礙紀神代

○ひけた地名　同　比氣多古下雄畧

○ひさし久　同　比佐斯万五ノ十四丁十四ノ卅二丁　十六ノ卅丁ニ非を用たるは不正

○ひたち國名　同　比多知万廿ノ廿六丁

○ひぢき地名　同　比治奇のなた万十七ノ七丁

○しぬひ忍　同　志怒比万十七ノ四十二丁廿ノ卅五丁十四ノ十五丁十九ノ十五丁

○ひとつ一　比ヲ用フ　比登都古上　比等ころ万十九ノ廿五丁

○ひばり鳥名　同　比婆理古下仁徳万廿ノ四十二丁

○ひむか國名日向　辟ヲ用フ　辟武伽紀推古

東のひにもこれに准らへて比の字を用ふべし

○ひむし虫ノ名　譬ヲ用フ　譬務始紀仁徳

○ひめだ姓　比ヲ用フ　比賣陀古中開化同下履中

○ひらぶ 貝名　同　比良夫 古上

○ひらで 葉盤　同　比羅傳 古中仲哀

○ひらく 開　同　比良可武 万十四ノ廿一丁

○ひろふ 拾　同　比呂波牟 万十四ノ十一丁

○ふひこ 人名又姓也　同　不比等 紀持統

○たぢひ 地名又姓又虎杖　比ヲ用フ　多遲比怒 古中履中 多遲比 紀反正姓氏錄

○たがひ 違　同　多賀比 古中崇神

○たゆひ 地名　同　多由比がた 万十四ノ卅二丁

○つごひ 集　同　都度比 万十八ノ廿四丁廿ノ十七丁

○になひ 荷 同 尒奈比 万十八ノ十七丁

○たひら 平 同 多比良宜 万五ノ十一丁

○つひに 終 同 都比尒 万廿ノ六十一丁

○こひう 夷ノ地名 同 塗毗宇 紀齊明

○あひだ 間 同 阿比陀 万五ノ七丁 十七ノ卅八丁

○あひづ 陸奥ノ郡名 同 安比豆 万十四ノ十五丁

○ねがひ 願 比ヲ用フ 彌可比 万廿ノ五十二丁

○ねらひ 伺 同 涅良比 万八ノ四十二丁

○のごひ 拭 同 能其比 万廿ノ卅四丁

○はがひ羽合　同　羽我比万一ノ廿六丁

○はくひ能登ノ郡名　同　波久比のうみ万十七ノ四十九丁

○はらひ拂　同　波良比紀顕宗万十五ノ十一丁

○まがひ亂　同　麻可比万十七ノ廿三丁

○まよひ弊　同　麻欲比万十四ノ十九丁

○まよひ迷　同　さ麻欲比万廿ノ卅七丁

○はひき神号　同　波比岐神古上神名帳

○むかひ向　比ヲ用フ　牟可比万十八ノ卅三丁卅四丁

○やまひ病　同　あた由麻比万廿卅丁

○やらひ逐　同　夜良比古上

○よそひ裝束　同　與曾比古上紀神代万十四ノ廿九丁廿ノ卅丁

○あまひ物ノ微也　同　この花の阿麻比のみ古上

○あゆひ足纏　同　阿由比古下允恭紀雄畧紀万十七ノ四十三丁

○あらひ洗　同　安良比万十五ノ廿丁

○いさひ人名　同　伊佐比宿禰古中成務

○いちひ櫟又人名　同　伊智比古中應神万十六ノ卅丁

○いはひ齊　同　伊波比万十五ノ四丁　廿ノ廿二丁に非を用ひたるは不正

○うかひ姓也鵜養　比譬ヲ用フ　宇加比古中神武宇介譬紀同

○うけひ 祈　同　宇氣比（古上同中垂仁）宇氣譬（紀神代）

○うすひ 信濃地名　比ヲ用フ　宇須比（万十四ノ十一丁廿ノ廿五丁）

○うたひ 謡　同　宇多比（古中仲哀神功）

○うはひ 奪　同　有婆比（万五ノ十九丁）

○うなひ 津國地名　同　宇奈比（万九ノ卅五丁十九ノ卅六丁）

○おすひ 襲覆　比譬ヲ用フ　於須比（古上）於須譬（紀仁德）

○おもひ 思　比ヲ用フ　淤母比（古中應神紀仁德万五ノ廿八丁）

○かがひ 嬥合　同　賀我比（万九ノ廿三丁）

○かしひ 筑前地名　同　訶志比（古中仲哀）

○かなひ叶　比ヲ用フ　可奈比万一ノ十丁

○かひな腕　比ヲ用フ　可比奈古中景行 万三ノ四十六丁

○かよひ通　同　あり我欲比万十八ノ廿三丁

○きほひ競　同　伎保比万廿ノ五十二丁

○きらひ嫌　同　岐羅毗紀神代

○くひな水鶏　同　倶比那紀皇極

○くるひ狂　必ヲ用フ　久流必万四ノ五十三丁

○ころひ嘖譲　比ヲ用フ　舉盧毗紀神代　但毗を用ひたるは清濁は不正

○したひ慕　同　斯多比万五ノ五丁 廿ノ卅七丁

○しなひ　同　四名比万十三ノ五丁

○しひた姓　比ヲ用フ　志比陀君古下宣化

○そがひ背向　同　曾我比万十四ノ十丁十七ノ四十丁廿ノ五十三丁十九ノ廿五丁

○そこひ底　同　曾許比のうら万十五ノ卅四丁

○にほひ匂　同　仁保比万十八ノ廿八丁十ノ四十二丁

○さすひ誘　同　佐須比万十六ノ廿八丁

○つかひ使　同　都加比古下允恭万十七ノ十九丁

○たまひ賜　同　なしせ多麻比そ古上はじめ多麻比万十八ノ廿二丁　いはひ多麻比し五ノ十三丁　猶おほし准
らへ知べし

【四言】

○ひぐらし蜩　比ヲ用フ　比具良之万十五ノ五十丁

○ひさかた天枕詞　比ヲ用フ　比佐迦多古中景行紀仁徳万五ノ七丁

○ひちしま地名　同　比智嶋紀天武

○ひねもす終日　同　比禰毛須万十八ノ七丁

○ひゝらき木名　二ツトモニ同　比比羅木古中景行

○ひもろき神籬　同　比莽呂岐紀崇神　紐呂寸万十一ノ廿八丁

○ひらかた地名　同　比攞かた紀繼体

○たなゆひ　同　ここは多奈由比万十七ノ廿九丁

○たましひ魂　同　多麻之比万十五ノ卅六丁

○たゆたひ猶豫　同　多由多比万四ノ廿二丁

○なりはひ産業　同　奈里波比万十八ノ卅二丁

○まくはひ婚合　比ヲ用フ　麻具波比古上

○まなかひ眼　同　麻奈迦比万五ノ八丁

○わづらひ　同　和豆良比古上

○あぎとひ　同　阿藝登比古中垂仁

○あしひき山の枕詞　比臂必ヲ用フ　阿志比紀古下允恭万十七ノ廿一丁阿資臂紀　安思必寄万十五ノ廿三丁

猶おほし

○あつなひ罪ノ名　比ヲ用フ　阿豆那比のつみ紀神功

○あどもひサソヒ立ル意　同　安騰母比万九ノ廿八丁九ノ十八丁二ノ卅四丁

○あらそひ 爭　同　安良蘇比 万十四ノ十九丁

○いざよひ 猶豫　同　射左欲比 万二ノ廿六丁

○いそばひ そばへる也　同　伊蘇婆比 万三ノ廿六丁

○うかゞひ 伺　卑ヲ用フ　于介伽卑 紀崇神

○うきゆひ 盞結　比ヲ用フ　宇伎由比 古上

○うぐひす 鶯　同　宇具比須 万五ノ十七丁 同十六丁

○うつろひ 移　同　宇都呂比 万五ノ廿九丁 十七ノ卅二丁

○うづなひ 諾　同　宇豆奈比 万十八ノ廿丁

○おこなひ 行　同　於虚奈比 紀允恭

○おこなひ音也　同　淤等娜比紀神代

○さひもち一尋鰐ヲ云　同　佐比持神古上

○さひづる囀　同　佐比豆留万十六ノ卅丁

○しらぬひ筑紫ノ枕詞　比ヲ用フ　斯良農比万五ノ五丁　之良奴日廿ノ十八丁　但し冠辭考の說のごとくなら
は肥の字を用ふべき事なり

○すひぢに神号　比ヲ用フ　須比智邇神古上

○なづさひ　同　奈豆左比万十七ノ四十五丁十九ノ十二丁

○たくはひ貯　同　多久波比万十九ノ廿九丁

【五言】

○ひばすひめ人名　比ヲ用フ　比婆須ひめ古中開化

○ひはの山伯耆ノ地名　同　比婆之山古上

○にぎはやひ神号　卑ヲ用フ　儞藝波椰卑紀神代

○きひさつみ人名　比ヲ用フ　岐比佐都美古中垂仁

○くひさもち神号　同　久比奢母智神古上

○しぐひあふ物くひあひのよき也　同　四具比あひにけむ万十六ノ十六丁

【六言】

○ひしろのみや景行天皇大宮所　比ヲ用フ　比志呂のみや古下雄略

○ひさこのかみ人品　同　比登誤廼伽彌紀神武

○ひならしひめ神　同　比那良志ひめ古上

○たぢまひたか 人名　同　多遲摩比多訶 古中應神

○くにのひふれ 人名　同　九邇能比布禮 古中應神

○かたかひがは 越中ニある川の名　同　可多加比我波 万十七ノ四十一丁

○たけひらこり 神号　同　建比良鳥命 古上

【七言】【八言】

○たぢまひならぎ 人名　比ヲ用フ　多遲摩比那良岐 古中應神

○たひりきしまるみ 神号　同　多比理岐志麻流美神 古上

【備】濁音

○某び 邊　備ヲ用フ　はま備 万十五ノ十二丁五ノ卅一丁六ノ卅一丁 やま備 十四ノ四丁十七ノ廿九丁 をか備 十七ノ十八丁　五ノ十七にヿを

か肥‖十四ノ八丁に「うな比‖とあるは正しからず

【二言】

○きび國名又穀物　備ヲ用フ　岐備古下仁德 紀應神　吉備のさけ万四ノ 廿五丁

○云々さび　同　かち佐備古上しみさ備「やま佐備「かむ佐備万一ノ 廿三丁をこめ佐備五ノ 五丁から佐備十九ノ 廿八丁おきな佐備十八ノ 卅七丁佐備神社神名 帳

○あび紀ノ國ノ地名　備ヲ用フ　阿備紀景 行

○わび侘　同　和備古上万四ノ卅四丁 續日宣命

【三言】

○あらび荒　備ヲ用フ　荒備万二ノ 廿八丁

○うねび大和地名　同　宇泥備古中神武紀同万廿ノ五十丁

○したび下樋又地名　備媚ヲ用フ　斯多備古下允恭　斯哆媚紀同　志多備社

○にきび和　備ヲ用フ　にき備にし万一ノ廿九丁　はたひなとにも備を用ふべし

○たけび健　備眉ヲ用フ　多稽眉紀神代　多鶏備万十一ノ二丁

○みやび風流　備ヲ用フ　美也備万五ノ十九丁

【四言】

○あしかび葦牙　備ヲ用フ　阿斯訶備古上

○うれしび嬉　同　宇禮之備万一ノ十一丁

○かなしび悲　同　可奈之備万廿ノ卅七丁　續日宣命「たふと備「あやし備「よろこ備などもあり

○ともしび 燈火　同　登毛之備 万十五ノ十二丁 十八ノ十丁

○かむなび 地名　同　神奈備 万八ノ十四丁十三ノ十二丁三ノ廿九丁神名帳

【毘】濁音　比を濁音にとなふる時には多く毘妣弭などを用ひて備の字をば用ひぬ格なり

【二言】

○某びき「ひく」引　毘弭婢妣鼻ヲ用フ　まよ弭枳 紀仲哀　まよ毘伎 万五ノ九丁　すそ毘伎 同丁　も婢伎 廿ノ五十七丁

たな婢久 同丁　みを妣伎 同廿五丁　なつそ妣久 十四ノ三十八丁　さを妣吉「こゝろ妣吉 同卅丁　此類ひ皆准らへ知べし

○某びこ 彦　毘寐妣ヲ用フ　はにやす毗古 古上　さほ毗古 古中垂仁　みまきいり寐胡 紀崇神　やま妣姑 万八ノ四十七丁

○某びめ 姫　毗妣ヲ用フ　さほ毗賣 古中垂仁　豊玉毘賣 古上　このはなのさくや毘賣 古上

○菜びこ人　毘鼻弭妣ヲ用フ　さゝ毘登古下允恭 な鼻苔紀同 さか弭苔崇神 さゝ弭等安康 ふな妣等万十四ノ三丁
やま妣等廿ノ十丁

○たび旅　妣婢鼻ヲ用フ　多妣万廿ノ十五丁 多婢十五ノ十六丁 多鼻一ノ廿五丁

○たび賜　婢ヲ用フ　多婢万廿ノ四十八丁

○こび飛　弭妣婢毗ヲ用フ　等弭紀仁徳 等妣万十五ノ十二丁 等婢同卅四丁 登毗十七ノ廿七丁

○よび呼　妣ヲ用フ　かこの欲妣ごゑ万十五ノ十一丁 たこの欲妣ざか十四ノ十七丁 いもがな欲妣て同六丁

○おび帯　寐婢妣ヲ用フ　於寐紀武烈 應婢万十八ノ卅五丁 於妣廿ノ四十丁

○しび魚名人名　毘寐婢ヲ用フ　志毘古下清寧 思寐紀武烈 志婢まろ万十六ノ廿一丁

【三言】

○某びらき開　毘寐婢ヲ用フ　おし毗羅枳紀繼体　おし寐羅かね崇神　おさ妣良伎万十五ノ六丁十八ノ十二丁　あさ婢良伎廿ノ卅八丁

○はびろ葉廣　毘ヲ用フ　波毘呂ゆつば　つばき古下仁德　波毗呂くまかし古下雄畧

○ぬびる野蒜　毗ヲ用ノ　怒毗流古中應神

○なびき靡　弭妣婢ヲ用フ　儺弭企紀顯宗　奈妣久万廿ノ十四丁　奈婢久同五十七丁

○なほび神号　毘ヲ用フ　神直毘天直毘神古上

延喜式には備を用ひたるは不正

○ならび並　弭毗ヲ用フ　那羅弭紀仁德　那良毗万五ノ五丁

神直備大直備尓ミナホシキヽナホホシマシテ祝詞

○はたひ人名　毗ヲ用フ　波多毗能大郎子古下仁德

○むすび神号　同　美武須毗紀神代

○むすび結　彌紕寐ヲ用フ　武須彌紀繼体　夢須寐紀武烈　牟須紕万廿ノ十三丁十八ノ廿四丁

○むせび　紕ヲ用フ　牟世比万廿ノ卅四丁

○わらび草名　同　和良紕万八ノ十四丁

○あしび木名　婢ヲ用フ　安之婢万七ノ十丁廿ノ六十二丁

○あそび遊　毘寐弭ヲ用フ　阿蘇毘古下淸寧万五ノ十六丁　阿蘇寐紀武烈　阿素弭天智

○あはび鰒　寐紕ヲ用フ　阿波寐紀武烈　安波紕万十八ノ廿三丁廿四丁

○いたび人名　寐ヲ用フ　伊梅寐紀安閑

○いなび人名又播磨ノ地名　毗ヲ用フ　伊那毗大郎女古中景行

○おらび叫　紕ヲ用フ　於良紕万九ノ卅六丁

○くすひ 神号又人名 毘ヲ用フ 能野久須毘命古上 久須毘郎女古下仁賢 古語拾遺に「くらひといふ事に
備の字を用ひたるは違ひならん歟

○さけび 叫 婢ヲ用フ 佐家婢万五ノ四十丁

○そびら 背 毗ヲ用フ 曾毗良古上

【四言】

○おほなび 人名 毗ヲ用フ 意富那毗古中孝元

○うすらび 薄氷 婢ヲ用フ 宇須良婢万廿ノ五十四丁

○びし〲 毗ヲ用フ はな毗之毗之万五ノ卅丁

○ほびこり ハビコル也 妣ヲ用フ 保妣許理万十八ノ卅二丁

○たびろく 飄掌 毗ヲ用フ 陀毗盧箇須紀神代

○むさゝび鼯鼠　婢ヲ用フ　牟佐佐婢万三ノ十八丁 七ノ卅六丁

【五言】【六言】

○やそひらか　毗ヲ用フ　八十毗羅訶古上　毗邏介紀神武

○いくすぬび神号　毘ヲ用フ　活須沼毘神古上

○ぬかたびちを神号　毗ヲ用フ　額田毗道男伊許知邇神古上

ふの部

【不】

【二言】【三言】

○ふは美濃郡名　不ヲ用フ　不破紀天武万二ノ卅四丁 廿ノ廿七丁姓氏録

○ふひと 人名又姓也 不ヲ用フ 不比等 紀持統 續日三ノ廿五丁

【賦】 こは多く地名と人の名とに用ふる假字なり

【二言】

○ふき 人名 賦ヲ用フ 賦枳 紀天武

○ふる 大和地名 同 賦屢 紀武烈

【三言】

○あぢふ 津國ノ地名 賦ヲ用フ 阿賦 賦紀孝德

○いふや 出雲ノ地名 同 伊賦夜坂 古上

○ふとに 人名 賦ヲ用フ 賦斗邇命 古中孝安 古事記にふとてふ事には布の字を用ひたり賦を用ひたるは「賦斗邇命と「賦登麻和訶ひめのみなりこは人名地名などに用ふる假字はおしなべて用ふるかなとはわきあ

るがゆゑなり猶此外にも此類おほく心得おくべし

【四言】【五言】

○ふつぬし 神号　賦ヲ用フ　經津主神經津此ヲ云ニ賦都一ト紀神代　但し古事記神武段に「佐士布都神「布都御魂などあれば布の字をも用ふるなり

○いちふかや 人名　賦ヲ用フ　市乾鹿文乾此ヲ云レ賦紀景行

○はにふざか 地名　同　波邇賦坂古中履中　但歌には布を用ひたり

○ふこまわか 人名　同　賦登麻和訶ひめ古中懿德

【服】濁音

○いふき 近江ノ地名　服ヲ用フ　伊服岐の山古中景行　服の字は此には一つも用ひたる事なし又夫の字は凡てにわたりて用ふる假名假字なればあげず

【幣】

○幾へ重　幣弊敝陛覇粺反遍邊ヲ用フ　夜幣かき古上美幣のこ古下雄略ふた弊紀仁徳なら陛同雄略野粺このこ天智夜覇がき神代や敝万廿ノ廿五丁いほ遍十ノ廿七丁知遍十七ノ四十丁ち弊五ノ廿三丁　猶おほし一處も閇を用ひたるはなし

○云々へ方也　幣弊敝陛返邊ヲ用フ　もこ幣「須ゑ弊古中應神紀仁徳もこ陛「須ゑ陛紀繼体　魔幣つきみ景行みやこ敝万十八ノ卅丁みや敝同卅三丁たに敝十九ノ十八丁廿丁しり弊廿ノ十六丁ここ敝同十九丁くに弊同卅四丁須めら弊同五十一丁した敝五ノ四十丁をか敝十四ノ卅五丁よこやま敝呂同廿九丁やま邊同廿四丁いにし邊十七ノ四十一丁いにし敝廿五ノ十一丁ゆく敝十八ノ十九丁へつ返三ノ十七丁　但し齊明紀に「かは杯万葉廿ノ廿四丁に『つくし閇とあるは正しからじ

○へ辭也　幣敝ニ?弊陛邊ヲ用フ　くに幣くだらす古下徳やまこ陛むきて紀欽明やまこ敝やりて万十

四ノ六丁しらき邊います十五ノ五丁みやこ敝のぼる廿ノ五十三丁みや弊のぼるこ五ノ廿七丁わがせこがくに弊ま
しなば十七ノ廿八丁　此類ひ皆おなじ事なり

○云々へ但東語ニ用フ　敝ヲ用フ　こけな敝ひもの万十四ノ廿三丁ねろこ敝なかも同廿九丁さねな敝ば同廿
丁ねな敝ごも同廿七丁ねな敝こゆゑに同廿九丁ぬがな敝ゆけば同廿一丁ゆかの敝ばあはの敝しだも同丁あ
はの敝ば同廿三丁ねな敝のからに同廿三丁そわ敝かも同卅四丁阿敝らくは十四ノ五丁　一處も閇などを用ひず

○へ沖にむかへてなぎさを云　幣陛邊ヲ用フ　幣つなみ古上陸にはよるこも紀神代邊にこぎみれば
万十七ノ卅六丁

【二言】

○いへ家　幣弊敝覇陛返ヲ用フ　わき幣古中景行紀同伊弊万廿ノ卅八丁五ノ五丁七丁十七ノ七丁十八丁伊敝十五ノ十六丁廿一丁廿九丁十五ノ八
丁いもか陛に五ノ十八丁わか覇のその同十五丁伊返同廿丁　閇を用たる處なし

○いへ云　幣弊敝珮ヲ用フ　なか伊幣せこそ古下仁德なか伊弊せこそ紀同人は伊珮ご紀神代　あきご伊弊ば万廿ノ十三丁あせご伊敝か十四ノ廿丁たびこ弊ご廿ノ卅一丁い敝こも十四ノ卅一丁　猶おほし但し廿ノ廿三丁に閇を用ひたるは正しからず

○へき姓　幣ヲ用フ　幣岐古中應神

○みへ伊勢ノ郡名　同　美幣古下雄畧

○くへ垣　同　久敝万十四ノ卅丁

○云々へら上よりいひつゞくるへ也　敝ヲ用フ　おも敝良なくに万十七ノ十七丁　おも敝良ば十四ノ廿六丁　あ敝良くは十四ノ四丁

○云々へり上よりいひつゞくるへ也　幣敝覇ヲ用フ　あめを淤幣理『ひなを淤幣理古下雄畧　あ敝利万十五ノ廿一丁　おも敝里し十九ノ廿九丁　にほ敝理し同四十七丁　こもしあ敝里十五ノ廿一丁　たく覇利佛足石歌

○云々へる上ニ同じ　幣弊敝ヲ用フ　たゞよ弊流古上む加幣流古中景行紀同つゆお弊流はぎ万廿ノ十五丁さづけたま弊流同五十一丁にほ敝流十五ノ十八丁ちら敝流十五ノ廿一丁ぬ敝流ころも同卅四丁にほ弊流十七ノ十二丁廿一丁卅二丁なにお敝流同四十四丁ひり弊流廿ノ卅八丁あ敝る十四ノ廿三丁なにお敝流廿ノ五十一丁きみにあ敝流十八ノ十丁にほ敝流十五ノ十八丁あがも敝流十五ノ十三丁ながさ敝流十八ノ廿一丁たま敝流十八ノ廿三丁廿ノ五十二丁おのがなお敝流十八ノ廿三丁おも敝流廿ノ四十四丁十八丁廿九丁お返流やまのな五ノ廿四丁にほ敝類一ノ十四丁十一ノ四十一丁四ノ十八丁八ノ四十五丁十ノ五十八丁　われはも幣流を寛平縁起

タグ陸る紀孝徳

此類ひ皆准らへ知べし凡て『へら『へる『へれとつゞく言葉の‖へ‖には幣‖をのみ用ひて閇‖を用ひたる處は一つもなし心をつくべし

○云々へれ上ニ同ジ　弊敝ヲ用フ　ひり敝禮ご万十五ノ十四丁たぐ弊禮ご十七ノ卅一丁おも敝禮ば十五ノ十一丁おも弊禮ご十七ノ十二丁のらしたま敝禮十八ノ廿七丁まをしたま敝禮十八ノ廿丁おも敝禮ご十五ノ廿丁

【三言】

○かへり『かへる『かへれ歸　幣弊敝反ヲ用フ　い賀幣理古下允恭紀同可幣利万五ノ七丁可敝流さ十五ノ十丁

可反流さ同廿八丁こしゆき我敝理十七ノ卅二丁十八ノ卅丁廿ノ五十七丁可弊禮五ノ廿五丁　万廿ノ廿八丁に閇を用ひたるは正しからず

○かへり變　弊ヲ用フ　まつ我弊里万十七ノ四十七丁

○かへし返　敝邊ヲ用フ　そでをり加敝之万廿ノ十九丁そてふり可邊之十七ノ卅七丁おき可邊さへば十八ノ卅五丁

○かへる越前ノ地名　敝ヲ用フ　可敝流万十八ノ十一丁

○ゆふへ夕　弊敝ヲ用フ　由布弊万九ノ卅九丁廿ノ十三丁四十五丁　由布敝十九ノ四十八丁

○もりへ守人　敝弊ヲ用フ　毛利敝万十四ノ十丁十八ノ十七丁　母利弊十七ノ四十六丁

○へだて『へなり隔　弊敝邊ヲ用フ　邊多天留万五ノ廿三丁敝太思十四ノ十八丁弊奈里廿ノ十三丁十五ノ卅五丁

○へくり地名　幣ヲ用フ　幣具理古中景行紀同

○はるへ　弊敝ヲ用フ　はる弊万廿ノ四十三丁　はる敝十四ノ廿六丁

○うらへ占　敝ヲ用フ　宇良敝万十四ノ七丁 十五ノ廿五丁

○おさへ押塞也　幣ヲ用フ　於社幣だ紀齊明　こは一處なれども『ことさへぐのへ』にも敝』を用ひたれば准らへてあげつ『ことさへぐも言のさはりとゞこほる意なり但し續日宣命には閇を用ひたり猶よく考ふべし

【四言】

○うへかた地名　敝ヲ用フ　宇敝かた山万十五ノ廿七丁

○かへらま却也　同　加敝良末に万十ノ四十六丁

○かへるで楓ヲ云　同　わが加敝流氐万十四ノ廿五丁

○へらさか地名　幣　幣羅坂古中崇神

○いはひへ齋器　同　いはひ弊万廿ノ卅二丁

【五言】

○いふりさへ 夷地名 陛ヲ用フ 伊浮梨娑陛 紀齊明

○ここさへぐ からの枕詞 敝ヲ用フ 言佐敝久 万二ノ十五丁 卅五丁

○へろべしま 地名 弊ヲ用フ 弊路弁嶋 紀齊明

○をみなべし 女郎花 弊敝ヲ用フ 乎美奈弊之 万廿ノ十一丁 五十丁 乎美奈敝之 十七ノ十七丁 十八丁

【閇】

○へ 船ノヘ也 閇閉ヲ用フ ふなの閇 万五ノ卅一丁 閉むけこがむこ 廿ノ廿四丁 閉むかも 同丁 廿ノ廿四丁卅一丁に敝弊をも用ひたれど今は閇によりつ

○へ 經也 閇閉ヲ用フ つきはき閇ゆく 古中景行 閇蘇同崇神 このよはを閇む 佛足石歌 大閉蘇彌命 姓氏錄

此類ひ皆准らへ知べし但し万十五の卅三丁にいのちだに敝ばとあるは不正

○云々へ上よりいひつゞくるへ也　閇ヲ用フ　たゝか閇ば（古中神武）こひたま閇ば（古下仁德）みちこ閇ば（同履中）むか閇をゆかむ（同允恭）おちふらば閇（同雄畧）きみもあ閇やも（紀允恭）みちこ沛ば（紀履中）いへのら閇（万一ノ七丁）やこみたま閇ば（續日宣命）　万葉廿ノ廿四丁に『つか敝とあるは不正ならむ歟又云紀万葉には閇の字を用ふべき處に陪倍を用ひたる事おほし

（附箋）

○云々へ波世ノ約リ也　閇ヲ用フ　ヲユキ阿閇（古下雄畧）都度閇知泥（古上）波羅閇つもの（紀神代）コレツトヘハ令集[ツドハセ]アヘハ令[ア]合[ハセ]ハラヘハ令祓[ハラハセ]也占合ナドヲモ字良閇トカクベシ万十七ノ巻ニイヒ波良倍トアルハ不正佐較波閇タマヒ（儀式帳）（頭書）サシ迦閇万五ノ九丁コレモサシハセ也

（附箋）

万葉十九ノ三十五丁ニ『いは敝かみたち十五ノ三十八丁に伊波敝わがせこ同三十六丁ニ『しぬ敝などあるは正しからざるなり

【二言】

○あへ人名姓又地名　閇ヲ用フ　阿閇まろ紀天武　阿閇臣紀孝元姓氏録阿閇しま紀仲哀　阿閇皇女万一ノ十八丁阿閇儀式帳

○あへ合也　閇ヲ用フ　をゆき阿閇古下雄畧　万葉集廿ノ廿九丁にあ敝まかましをとあるは不正ならん

○あへ敢　閇ヲ用フ　たきつ心を塞敢而有かも万七ノ卅八丁　まもり不敢も十一ノ廿八丁　きそひ敢六かも三ノ廿四丁　よみも将敢かも十三ノ十五丁　敢而こぎなる九ノ八丁　こは正しき假字書は見あたらねども必ずしかかくべき詞の勢ひなり但し廿ノ卅一丁に『おもは弊なくにとあるは正しからじ

○うへ上　閇杯ヲ用フ　宇閇古上禹杯紀齊明いはの杯皇極やまの閇万五ノ廿四丁いはのう閇佛足石歌おすひの宇閇寛平縁記　万葉十四の十九丁卅一丁に敝を用ひたるは正しからじ

○うへ姓　閇ヲ用フ　宇閇直紀天武

○かへカハシ也　閉ヲ用フ　たまてさし迦閉万五ノ九丁

○きへ地名　閇ヲ用フ　岐閇古上　姓氏録に意富之閉連といふもあり

○云々さへ并　閇閉ヲ用フ　あかたまはを佐閇ひかれご古上心佐閇万九ノ廿八丁みなそこ佐閇に十ノ廿五丁せき佐閉に十七ノ卅二丁そで佐閇ぬれて廿ノ十四丁うけたまはれるこころを佐閇續日宣命つち佐閇『つみ佐閇佛足石哥　此類ひ皆おなじ但し万葉十四の卅二丁に敝を用ひたるは正しからず

○たへ絹ノ名　閇ヲ用フ　しろ多閇古下雄畧しき多閇万五ノ十一丁てる多閇『にき多閇『あら多閇延喜式

○にへ地名又贄也古事記傳曰にへは新饗（ニヒアヒ）を約メタル也　閇ヲ用フ　爾閇のうら万廿ノ十六丁尓閇續日・六ノ十丁[万脱カ]四ノ十丁

○あへ饗也　閇ヲ用フ　前條を考へ合せよ

○はへ延　閇ヲ用フ　波閇けくしらに古中應神したよ波閇つゝ古下仁徳　万葉十四ノ廿九丁に『ことおろ

波𪜈とあるは正しからず凡て万葉にはおなじ波倍と濁音の倍の字を用ひたり

【三言】

○あへぐ喘　閇ヲ用フ　敢而こぎなる万九ノ八丁　三ノ四十丁ニ安倍而こぎとよむ同卅四丁に阿倍寸ともありこは清濁はたがへども凡て書紀万葉に閇に通はして用ひたる處おほし心をつくべし

○かぞへ算　閉ヲ用フ　可俗閉万五ノ廿九丁

○つごへ集　閇ヲ用フ　都度閇知泥神古上

○おもへ思　同　心は母閇こ古中應神紀仁德　あれは意母閇ご古中景行意母閇ごも万五ノ十丁　万葉十四ノ卅五丁に『あどもㇵ𪜈かとあるはいかにおもへればかといふ意なれば𪜈を用ひてよろし䏻の部の『へり『へる『へれの條にいへる格なり

○むごへ人名　閇ヲ用フ　牟五閇紀持統

○つかへ仕　閇ヲ用フ　都加閇佛足石歌　万葉廿ノ廿四丁に𪜈を用ひたるは不正

○はらへ　閇ヲ用フ　波羅閇つもの紀神代

（附箋）
○すたへ　杯閉ヲ用フ　須多杯紀神代　須多閇出雲風土記

【四言】

○さきはへ幸　閇ヲ用フ　佐岐波閇儀式帳

○にひなへ新饗也　同　尓比那閇古下雄畧

○わかくへ　同　和加久閇古下雄畧

【辨】濁音

【二言】

○こべ女ノ稱　辨蟄ヲ用フ　荒河刀辨古中崇神苅羽田刀辨同垂仁姤蟄紀神武

○云々すべ『せんすべ『いはんすべなど也　辨ヲ用フ　須辨万八ノ卅三丁三ノ五十六丁十五ノ卅一丁十七ノ廿三丁　但し五ノ六丁に須別同卅九丁に須便ともあり此外にも便の字をばあまた處に用ひたりこは用ふる假字にて言の意をもしらせたるかきざまなり又總てといふ言には倍の字を用ふべきかしれがたし

【三言】

○たかべ人名　辨ヲ用フ　多訶辨郎女古下反正

○あしべ芦邊　同　あし辨万十五ノ十三丁

○ぬなべ伊勢ノ郡名　謎辨ヲ用フ　偉儺謎紀雄畧員辨和名抄神名帳

○をなべ人名　辨謎ヲ用フ　袁那辨郎女古中應神烏儺謎ひめ同紀

○いろべ人名　辨ヲ用フ　百師木伊呂辨古中應神

○へろべ地名　辨ヲ用フ　倣路辨しま紀齊明

【四言】【五言】

○くさかべ地名　辨ヲ用フ　くさか辨古下雄畧

○とこのべ床邊　辨ヲ用ヲ　とこの辨古中景行

○やまのべ地名　謎ヲ用フ　耶麼能謎紀雄畧

但し『かほのへのへには倍を用ひたりこは倍の部にみゆ

○おほとのべ神号　辨ヲ用フ　大斗乃辨古上神

【倍】

【二言】

○あへ 駿河地名姓又人名 倍ヲ用フ 阿倍臣古中孝元紀同 阿倍郎女古中應神 阿倍のたのも万十四ノ廿八丁 猶おほし
皆同じ假字なり

○うべ 諾 倍ヲ用フ 宇倍古中景行万十九ノ十丁十四ノ廿二丁廿ノ廿五丁

○なべ 並 同 かゞ那倍て古中景行紀同 なのりなく奈倍万十八ノ十九丁 きく奈倍に五ノ十八丁 きこしめす奈倍廿ノ廿八丁 よろし奈倍万葉集中 此類皆准らへ知べし

○ほべ 姓也又火ノ姓也 倍ヲ用フ 穗允君允此ヲ云レ倍ト紀仁賢 褒倍紀神代

○云々べき『べく』べし可 人しりぬ倍志古下允恭 く倍根よひなり紀允恭 あく倍伎万十八ノ七丁 おもほゆ倍斯も五ノ六丁 ここにしある倍志同十二丁 かづらにす倍久同十五丁 ぬ倍美十九ノ廿二丁 猶おほし

【三言】【四言】

○みなべ 地名 陪ヲ用フ 彌那陪紀仲哀

○かはのべ川邊　倍ヲ用フ　迦波能倍古下仁德万十七ノ十九丁　但し『そこの本ノママ』『やまのべのへには辨を用ひたり猶よく考ふべし

○みちのべ道邊　倍ヲ用フ　みちの倍万廿ノ廿三丁

○ここしべ常　陪ヲ用フ　等虚辭陪紀允恭万九ノ九丁

書紀万葉に陪倍は淸音の閇の字に通はして用ひたる處のあまたあればこれも登許志閇と閇の字を用ひば淸音にとなふるにはあらじかとおもへどしかかける處しなければ今は陪の字を用ひたり

【六言】

○あべたちばな橘ノ名　倍ヲ用フ　阿倍橘万十一ノ卅八丁

ほの部

【菩】

【二言】

○ほひ神号　菩ヲ用フ　菩卑命古上　本富などを用ひたる事決てなし

○やほ人名　同　夜菩紀敏達

○あほ神号　同　阿菩大神播磨風土記

【番】

【二言】【五言】

○にほ人名　番ヲ用フ　仁番古中應神

○ほのにゝぎ神号　番ヲ用フ　番能邇邇藝命古上

【本】

○ほ 火也　本ヲ用フ　本那迦古中景行本牟智和氣古中ノ垂仁

【二言】

○ほき 賀　本ヲ用フ　本岐古中仲哀同下仁德　但し一處菩岐ともありされど本の字をば四處用ひたり又紀ノ神功巻万葉十九ノ巻などには保の字を用ひたるは通はしても用ふるなるべし

○さほ 大和ノ地名　本ヲ用フ　沙本「沙本ひこ」「沙本ひめ古中垂仁　但し万葉には佐保とあり

○しほ 潮　本ヲ用フ　志本古下仁德清寧　但し万葉には富保を用ひたり

○いほ 五百　本ヲ用フ　伊本知古下雄畧

○やほ 八百　同　夜本によし古下雄畧

○云々ほし　同　くる本斯「もこ本斯古中仲哀もこ本斯」「うら胡本斯古下清寧　但し神武段に『いはひもと富理景行段に『はひもと富呂布などには富の字を用ひたり

【三言】

○ほたり　本ヲ用フ　本陀理 古下雄畧

○ほつえ 秀枝　同　本都延 古中應神 同下雄畧

○ほむだ 人名　同　本牟多のひのみこ 古中應神

○をほご 人名　同　袁本杼命 古下武列繼体

【四言】

○ほつもり 含　本ヲ用フ　本都毛理 古中應神

○にほごり 鳥名　本ヲ用フ　邇本ごり 古中仲哀　万葉には保の字を用ひたり

○みほごり 鳥名　同　美本ごり 古中應神　但し應神段にはくにの富とあり万葉には保の字を用ひたり

○おほほこ 人名　本ヲ用フ　意富本杼王 古下 允恭

○みがほし 欲見　同　美賀本斯 古下 仁德

○たほひめ 人名　同　余曾多本ひめ 古中 孝昭

【五言】

○いさほわけ 人名　本ヲ用フ　伊邪本和氣命 古下 仁德

○ほむちわけ 人名　同　本牟智和氣 古中 垂仁

此書にあげたるより外は皆富保などを用ひてよろし富保ならばなべてにわたりて用ふるかななれば今ことにあげず

假字遣奥山路　下

かなつかひおくの山路三之巻

「ま」「み」「む」「め」「も」

まの部

【摩】

○さつま國名　摩ヲ用フ　薩摩万三ノ十五丁 五ノ十八丁　孝徳紀には麻の字を用ひたり

【磨】

○はりま國名　磨ヲ用フ　播磨紀景行 万十五ノ廿五丁

【末】

○某ま回　末ヲ用フ　うら末万十四ノ三丁十五ノ十一丁十八ノ六十八丁 しま末廿ノ卅四丁十七ノ廿六丁 やまの末三ノ四十一丁七ノ三十四丁 いそ末十七ノ十七丁十九ノ廿二丁 かへる末十八ノ十丁　但し九ノ卅二丁に『いそ縻十五ノ十丁に『いその縻ともあり今はおほきかたにより つ又縻の字はなべて用ふる假字なればあげず

みの部

【微】

○み身又貴也　微味未尾ヲ用フ　たちそばの微『いちさかき古中神武微のさかり人古下雄畧さ味なし古中景行さ微なし紀崇神たちそはの未『いちさかき未紀神武かくの未紀垂仁あか微万五ノ十九丁わが尾十五ノ十一丁あか未同卅五丁廿ノ六十二丁ちゝの未の廿ノ卅六丁ひこの微佛足石歌　万葉に美を用ひたる處もあるは正しからず

○み地名　微ヲ用フ　たもこほり往箕之里万十一ノ十七丁　箕は微のかり字也

【二言】

○みな皆　未ヲ用　未那紀應神万五ノ廿一丁廿ノ四十九丁十四ノ十一丁

○さみ姓又地名　味ヲ用フ　佐味君紀天武　佐味神社神名帳　佐味和名抄

○たみ回也　未味ヲ用フ　こき多味万一ノ廿五丁　多未てこぎくこ十六ノ廿五丁　多未たるみち十一ノ三丁

○云々たみ許と云ニ同し　未ヲ用フ　ふつか太未万十七ノ四十六丁

○のみ而已　微未味尾ヲ用フ　この花のあまひ能微古上ひこよ能未紀允恭　しほけ能味万二ノ卅六丁　かく能未ならし十九ノ十三丁かく能尾五ノ十二丁廿八丁　あそひこの味にはあらず『ひこりの未や『いまの未にあらず續日宣命　此類皆おなじ事なり但し万葉に美を用ひたる處もあるは正しからず

○やみ暗　未ヲ用フ　夜未万廿ノ四十三丁十五ノ卅丁卅三丁

○かみ神　微未尾味ヲ用フ　迦微古上可未紀應神万十八ノ廿二丁續日宣命　可尾万五ノ十三丁　可味万十七ノ四十四丁十九ノ廿九丁　加味のをここ『加味のをこめ常陸風土記　万葉に美の字を用ひたる處もあるは正しからず

○しみ佐備といふに同じ繁にはあらず　味ヲ用フ　神之味ゆかむ万六ノ四十四丁

【三言】

○すそみ山ノ麓ノ邊ヲ云　末ヲ用フ　須蘇末のやまの万十七ノ廿四丁　たかまこのみやの須蘇末の廿ノ十五丁

○くまみ浦みなど云みに同じ　尾ヲ用フ　みちのく麻尾万五ノ廿八丁

○うらみ浦廻　微ヲ用フ　いそのうら箕万五ノ八丁　いなびつま浦箕をすぎて四ノ十六丁　箕は微のかり字なる事『なつみのみに箕を用ひたるにてしらる

○なつみ吉野ノ地名　微ヲ用フ　夏實万三ノ卅六丁夏身『夏箕九ノ十七丁　十一ノ卅五丁に『すかしまの夏身の浦とよめるにて異地ときこゆ

○をかみ越中ノ地名　未ヲ用フ　乎加未かは『雄神河万十七ノ四十八丁

○こゞみ留也　尾ヲ用フ　等騰尾かね万五ノ九丁十一ノ廿五丁　極(キハマ)る事をとゝみといふ事あるそは美の字を用ふる例なりこは美の部にみゆ扨これより下三條のみはめに通ふみにてなべての美とは異なれどかなをも用ひわきたるなるべし

【四言】

○つまごみ妻隠　微ヲ用フ　つま碁微古上

○にふなみ新嘗也但東語　未ヲ用フ　尓布奈未万十四ノ廿丁

【美】

○み眞ニ通フみ也　美彌民ヲ用フ　美やま古下顯宗　美おすひ仁德　美たに古上　彌やま紀顯宗　彌おすひ紀仁德　美えしぬ古下雄畧紀天智　民ふゆ万十七ノ八丁　彌こゝかしこみ同廿九丁　美そら廿ノ卅八丁　美可度万十五ノ廿丁　美つき廿ノ廿五丁

此類のみ猶おほし准らへて皆美の字を用ふべし

○云々み言の下につゞくみ也　美彌ヲ用フ　やまたか美古下允恭　さかし美同仁徳　やまたか彌紀允恭　さふし彌万二ノ四十一丁　かしこ彌九ノ廿七丁　風をいた美十四ノ八丁　まかなし美同廿丁　うらわか美同廿五丁　はくく美十五ノ四丁
此類猶おほし

（附箋）

○云々み　美ヲ用フ　うるはし美おもふ古中應神　いこわか美かも万四ノ五十九丁　おもひな美かも十七ノ九丁
○云々み　一ツみ也　美ヲ用フ　つこにもやり美『おきてからし美万十八ノ廿八丁　あつさゆみ引見（ヒキミ）縦見（ユルヘミ）十五ノ十六丁

【二言】

○みけ筑紫ノ地名　彌ヲ用フ　彌開紀景行
○みち獸名　美ヲ用フ　美智古上紀神代

○みつ 地名　美ヲ用フ　美津のはま 万十五ノ十一丁

○みつ 水　美彌寐ヲ用フ　瀰逗 紀武烈　寐逗 紀顯宗　美豆 万十七ノ四十九丁

○みつ 書紀ニ瑞とかけり　美豆 古中 垂仁 万一ノ廿三丁　彌圖 紀神代

○みぬ 國ノ名　美ヲ用フ　美濃 古上 紀天武 万六ノ卅九丁　瀰を用ひたる處はなし

○みね 峯　彌美ヲ用フ　彌年 万十四ノ廿六丁 十七ノ四十一丁

○みふ 地名　美ヲ用フ　美文 紀皇極

○みへ 伊勢ノ郡名　美ヲ用フ　美幣 古下 雄略

○みほ 地名　美ヲ用フ　美保 紀神代 万三ノ四十九丁

○みわ 地名　美瀰彌ヲ用フ　美和山 古中 崇神　瀰和 紀同　彌和 万七ノ九丁

○みる海松　美ヲ用フ　美留万五ノ卅丁

○みる見　美彌民ヲ用フ　むな美流こき古上めにし彌曳ねば紀神功めこ美禮は万八ノ七丁　彌流までに同十八丁もこな民延つゝ十九ノ卅丁　猶おほし但し古事記上巻に『かき微流『うち微流と二處あり不正なるべし

○みを水脉　美ヲ用フ　美乎万廿ノ四十九丁

○もみ　美ヲ用フ　こゝこ毛美万十六ノ廿九丁

○もみ國栖人蝦ヲもみと云　瀰ヲ用フ　毛瀰紀應神

○やみ病　美ヲ用フ　夜美しゝ古下雄畧夜美しわたらば万五ノ廿八丁　凡てま。み。む。と活用く言に用ふるみ。には多く美の字を用ふる格なり

○やみ止　美ヲ用フ　いこふここ夜美万五ノ四十丁

○ゆみ弓　美瀰ヲ用フ　由美古中應神万十四ノ廿四丁　由瀰紀仁德

○よみ物を數ふる也　美彌ヲ用フ　つきび餘美つゝ万廿ノ十八丁十七ノ廿三丁うた豫瀰紀神武

○ゑみ笑　美ヲ用フ　惠美古上

○つみ摘　美彌ヲ用フ　都美万十四ノ十九丁十七ノ十七丁　通彌廿ノ五十二丁

○某つみ神号又人名ニ云つみ也　美ヲ用フ　其花麻豆美神古上　意富加牟豆美命古上　和知都美命古中安寧

岐比佐都美古中垂仁

○はみ姓　美ヲ用フ　波美臣古中孝元

○とみ狩スル時鹿ノ行方ヲ見ル人ヲ云　美ヲ用フ　跡見万六ノ十四丁　見は美のかり字也

○とみ地名　美ヲ用フ　登美古中神武

○とみ富　美ヲ用フ　こは假字書はなけれど「とみとむと活く詞なれば美としつ

○なみ浪　美彌ヲ用フ　那美古上万十七ノ卅四丁

○なみ 並　美彌ヲ用フ　人奈美 万五ノ卅丁 奈美にしもはゞ 同廿一丁 いし奈彌おかば 廿ノ十四丁

○のみ 呑　彌ヲ用フ　能彌 万五ノ十五丁

○のみ 祈　美ヲ用フ　能美のみまひ 古下雄畧 こひの美 万五ノ四十丁

○ひみ 越中ノ地名　美ヲ用フ　比美の江 万十七ノ四十六丁

○ふみ 踏　美ヲ用フ　布美たて 万十七ノ四十五丁 布美しあと 佛足石哥

○あみ 網　美彌ヲ用フ　彌彌 紀神代 安美 万十七ノ十二丁

○うみ 海　美彌ヲ用フ　宇美 古中神武 万十四ノ五十　宇彌 紀允恭 万十七ノ卅六丁

○うみ 生也又地名　彌ヲ用フ　宇瀰 紀應神

○おみ 臣　美彌ヲ用フ　淤美のをとめ 古下雄畧 つぶらの意富美 古下安康 於彌のをとめ 紀仁德

○かみ上　美ヲ用フ　賀美つせ古下允恭万十七ノ九丁　かは加美万五ノ廿丁

○かみ髮　美ヲ用フ　可美万五ノ五丁

○かみ酒ヲかむ也　美瀰ヲ用フ　迦美古中仲哀　伽彌紀神功

○かみ口ニテ物ヲカム也　美瀰ヲ用フ　佐賀美尓迦美古上佐我彌にかむ紀神代

○きみ君　美彌瀰弭民ヲ用フ　おほ伎美古下雄畧　枳瀰同紀　企弭紀神代　耆瀰仁德　吉民万十八ノ六丁　伎彌万五ノ廿三丁　伎美万葉に多し

○くみ組　瀰ヲ用フ　矩瀰うき紀武烈

○くみ隱也　美ヲ用フ　久美こ古上　久美ねむ古下雄畧

○くみ茱萸　美ヲ用フ　久美万三ノ廿五丁

○さみ讃岐也地名　美ヲ用フ　佐美の山万二ノ四十三丁

○きみ人名　彌美ヲ用フ　三方沙彌万二ノ十六丁　沙彌滿誓三ノ卅六丁　沙美まろ廿ノ四十三丁　されど彌を用ひたる所ぞおほき

○しみ染也　美ヲ用フ　之美にし心万廿ノ四十五丁

○しみ又しみゝ繁也　美彌ヲ用フ　多斯美たけ古下雄畧　みやまこ之美に万十七ノ九丁　みやこゝ志彌美に三十三ノ廿七丁　みきり志彌美に同廿八丁

○すみ墨　彌ヲ用フ　須彌なは紀雄畧

○すみ済也　美ヲ用フ　西美こ万十四ノ廿三丁

○すみ住　美ヲ用フ　須美にしこぞいふ万十五ノ卅四丁

○すみ隅　美ヲ用フ　須美古下清寧

○某みゝ人ノ名ニ云　二ツトモニ美ヲ用フ　たきし美美命『さす美美命古中神武　此類のみゝ外をも准

らへ知べし又某耳とかける處もあれば耳も美美とかくべし

○みみ耳　ニツトモニ美ヲ用フ　上條を考へ合せよ

【三言】

○あまみ嶋名　彌ヲ用　阿麻彌嶋紀天武

○あさみ人名　美ヲ用フ　阿邪美つひめ古中垂仁

○あつみ美濃郡名又人ノ名　美ヲ用フ　厚見王万八ノ十七丁

○いつみ泉又國号又地名　美ヲ用フ　伊豆美古中崇神万十七ノ十丁

○いはみ郡集　彌ヲ用フ　悟波彌紀神武

○いはみ國名　美ヲ用フ　石見(イハミ)万二ノ十八丁

○いなみ播磨地名　美ヲ用フ　伊奈見万一ノ十二丁廿ノ十二丁

○あかみ地名　美ヲ用フ　安可見山万十四ノ廿二丁

○いみき姓　美ヲ用フ　伊美吉万十九ノ卅一丁卅三丁

○いみづ越中ノ郡名　美ヲ用フ　伊美豆がは万十七ノ四十二丁

○いさみ勇　美ヲ用フ　伊佐美万廿ノ十八丁

○あふみ國名　美彌ヲ用フ　阿布美古中仲哀万十四ノ十五丁　阿甫彌紀顯宗

○あふみ鐙　美ヲ用フ　安夫美万十七ノ四十九丁

○かゞみ鏡　美彌ヲ用フ　加賀美古下允恭万十五ノ十二丁　可我彌十九ノ卅丁

○かくみ圍　瀰美ヲ用フ　箇區瀰紀仁徳　可久美万廿ノ卅七丁

○かすみ霞　美ヲ用フ　可須美万五ノ十八丁廿ノ十一丁

○かたみ形見又地名　美ヲ用フ　可多美万十五ノ六丁　形見のうら七ノ十八丁

○かみら　美瀰ヲ用フ　賀美良古中神武介瀰羅紀同

○きしみ地名　美ヲ用フ　吉志美かたけ万三ノ卅九丁

○きはみ極　美ヲ用フ　伎波美万十七ノ廿丁卅二丁

○こくみ瘜内　美彌ヲ用フ　胡久美延喜式和名抄古久彌延暦儀式貞観儀式

○こなみ前妻　美瀰ヲ用フ　古那美古中神武固奈瀰紀同

○このみ好　美ヲ用フ　許能美万十五ノ卅五丁

○こぬみ地名　美ヲ用フ　許奴美のはま万十二ノ卅九丁

○さくみ又さぐくみ此說古事記傳にくはし　美ヲ用フ　いは佐久美万廿ノ五十丁いゆき佐具久美同十八丁

○しきみ樒　美ヲ用フ　之伎美万廿ノ五十四丁

○しじみ蜆　美ヲ用フ　四時美万六ノ卅丁

○しつみ沈　美ヲ用フ　之豆美万十四ノ五丁

○しふみ人名　美ヲ用フ　志夫美宿禰古中開化

○しぼみ凋　美ヲ用フ　之保美万十八ノ卅二丁

○しみら　彌ヲ用フ　ひるは之彌良に万十三ノ廿一丁

○すゝみ進　美ヲ用フ　須須美佛足石哥

○すみれ菫　美ヲ用フ　須美禮万八ノ十九丁

○おかみ神号　美ヲ用フ　淤加美古上紀神代 万二ノ十五丁

○たくみ工　美瀰ヲ用フ　おほ多久美古下清寧　たく瀰紀雄畧・

○たゝみ疊　美瀰ヲ用フ　多多美くも古中景行　多多彌古下允恭紀景行 万十六ノ卅丁　万十五ノ廿三丁『多々利とある
は正しからじ

○たのみ賴　美ヲ用フ　多能美万十四ノ五丁

○たわみ弱也　美ヲ用フ　多和美万六ノ十五丁　多波美つる十四ノ廿六丁

○つかみ搏　美ヲ用フ　束見万十六ノ十五丁

○つゝみ皷　美彌ヲ用フ　都豆美古中仲哀　菟豆彌紀神功

○つゝみ堤　美ヲ用フ　都追美万十四ノ卅一丁

○つゝみ包　美ヲ用フ　都々美万十八ノ廿四丁

○つゝみ恙　美ヲ用フ　都都美なく万五ノ卅二丁

○こなみ越前ノ地名　美ヲ用フ　刀奈美万十八ノ十七丁十七ノ四十三丁

○とよみ動騒　美彌ヲ用フ　騰余彌紀武烈　登與美万十四ノ廿二丁

○なつみ煩　美ヲ用フ　那豆美古上同中景行万十九ノ十二丁

○ぬすみ盗　美ヲ用フ　奴須美古中崇神

○はさみ挾　美ヲ用フ　たば左美万廿ノ五十丁

○なみだ涙　美彌ヲ用フ　奈美多古下仁徳万五ノ六丁　那彌多紀仁徳

○ふしみ地名　美ヲ用フ　伏見万九ノ十一丁

○みけし御衣　美ヲ用フ　美祁斯古上万十四ノ三丁

○みこ〻命又尊　美ヲ用フ　かみの美許等『つまの美許登古上美擧等紀神代ち〻の美許等』は〻の美已等万十九ノ十四丁　此類皆おなじ

○みこし相模ノ地名　美ヲ用フ　美胡之万十四ノ六丁

○みさご鳥名　美ヲ用フ　三佐呉万十三ノ廿六丁四十丁美沙(サゴ)三ノ廿四丁　水沙兒十一ノ卅七丁　これに准らへて數の三にも美を用ふべし

○みたれ亂　美ヲ用フ　美陀禮古下允恭万十四ノ五丁

○みづら髻鬘　美ヲ用フ　美豆良古上紀神代

○みしま地名　美ヲ用フ　美之痲野万十七ノ四十六丁

○みつれ羸　美ヲ用フ　三禮(ミツ)万四ノ四十九丁十ノ廿一丁

○みごり緑　美ヲ用フ　美騰里兒万十八ノ卅二丁

○みなと水門　彌美ヲ用フ　彌灘斗紀武烈　美奈刀万十四ノ十八丁

○みなへ地名　彌ヲ用フ　彌那倍紀仲哀

○みぬめ地名　美ヲ用フ　美奴面万十五ノ十二丁

○みやび風流　美ヲ用フ　美也備万五ノ十九丁

○みやけ屯倉　彌ヲ用フ　彌夜氣紀垂仁舒明

○みやこ都　美彌ヲ用フ　美夜古万五ノ十丁十五ノ七丁十七ノ九丁　彌夜故

○みもろ地名三諸也　美ヲ用フ　美母呂

○もみち黄葉　美ヲ用フ　毛美知

○よさみ姓又地名寄網　美瀰ヲ用フ　余佐美古中應神　豫佐瀰紀同

○わさみ美濃地名　美ヲ用フ　和射美万十ノ六十三丁

○わなみ越國地名　美ヲ用フ　和那美のかは古中垂仁

○めくみ惠　美ヲ用フ　米具美万十九ノ十五丁

○こつみ木屑　美ヲ用フ　許都美万廿ノ卅三丁十四ノ卅三丁

○えみし夷　瀰ヲ用フ　愛瀰詩紀神武

○こゞみ極也　美ヲ用フ　登等美万九ノ廿八丁

【四言】

○みかしほ嚴潮　瀰ヲ用フ　瀰箇しほ紀仁徳

○みじかし短　美ヲ用フ　美自可伎万十五ノ卅三丁

○みつまき神号　彌ヲ用フ　彌豆麻岐神古上

○みつぐり中ノ枕詞　美瀰ヲ用フ　美都ぐり古中顯神　瀰菟ぐり同紀

○みほこり鳥名　美ヲ用フ　美本こり古中顯神

○みやしろ地名　美ヲ用フ　美夜自呂万十四ノ卅五丁

○みろなみ神号　美ヲ用フ　美呂浪神古上

○いみがた人名　美ヲ用フ　伊美賀古王古下欽明

○うみのこ子孫　美ヲ用フ　宇美乃古万廿ノ五十一丁

○おみつぬ神号　美ヲ用フ　淤美豆奴古上

○たかみや大和ノ地名　美瀰ヲ用フ　多迦美夜古下仁徳　多迦瀰椰同紀

○あわなみ神号　美ヲ用フ　沫那美神古上

○いさなみ神号　美ヲ用フ　伊邪那美古上

○うつせみ顯　美ヲ用フ　宇都曾美万十九ノ廿七丁　宇都勢美同十三丁

○おしぬみ大和ノ地名　瀰ヲ用フ　於尸農瀰紀顯宗

○さゝなみ近江ノ地名　美彌ヲ用フ　佐佐那美古中應神　左散難彌万一ノ十七丁

○しなとみ神名　美ヲ用フ　大科度美神古上

○したゝみ細螺　美瀰ヲ用フ　志多陀美古中神武　之多儴瀰紀同

○しからみ水塞也　美ヲ用フ　四我良美万二ノ卅三丁七ノ卅八丁

○たゝなみ地名　美ヲ用フ　多多那美紀仲哀

○たなかみ 近江地名田上　瀰ヲ用フ　多那伽瀰 紀神功

○つらなみ 神号　美ヲ用フ　頰奈美神 古上

○つるばみ 橡　美ヲ用フ　都流波美 万十八ノ五十一丁

○なかとみ 中臣　美ヲ用フ　奈加等美 万十七ノ五十一丁

○なまよみ 甲斐ノ枕詞　美ヲ用フ　奈麻余美 万三ノ廿七丁

○つくよみ 月ヲ云　美ヲ用フ　月夜見 万十三ノ八丁　月讀壯士(ヲトコ) 万七ノ卅七丁　見は美のかり字ニよみのみにも美を用ふれば美なる事しるし又黄泉のみにも美を用ふべきにやこは假字書を見あたらず

○はしかみ 薑　美瀰ヲ用フ　波士加美 古中神武　破餌介瀰 紀同　波自加彌神社 神名帳

○ふたがみ 地名　美ヲ用フ　敷多我美山 万十七ノ四十一丁十八ノ十三丁

○ふぢなみ 藤　美ヲ用フ　ふぢ奈美 万十九ノ卅丁十七ノ卅七丁十八ノ八丁

○ゆらさみ人名　美ヲ用フ　由良度美古中應神

○ゆむすみ人名　美ヲ用フ　由牟須美命古中開化

○わたつみ海　美民ヲ用フ　和多都美紀神代五ノ十三丁和多都民万十九ノ廿九丁

○をろがみ拜　彌ヲ用フ　烏呂餓彌紀推古

【五言】

○みつはのめ神号　美彌瀰ヲ用フ　彌都波能賣神古上美都波紀神代瀰菟破廼迷紀神武

○みつ〳〵し久米ノ枕詞　美瀰ヲ用フ　美都美都斯古中神武瀰都瀰都志紀同　これに准へて物の滿ミツといふ事にも美を用ふべし万葉一ノ廿丁に『しほみ都らむかとも』あり三は美のかり字なり

○みなのわた黒ノ枕詞　彌美ヲ用フ　彌那のわた万七ノ廿七丁美奈のわた五ノ廿丁十五ノ十九丁

○みやすひめ人名　美ヲ用フ　美夜受ひめ古中景行

○をみなへし女郎花　美ヲ用フ　乎美奈弊之万廿ノ十一丁同五十丁

○あかみこり年号　美ヲ用フ　阿訶美苔利紀天武

○やすみしゝ安ミ知食之　美ヲ用フ　夜須美しし古中景行夜輪瀰しゝ紀仁徳八隅知之万一ノ十八丁安見知之同十九丁

○さかみつき酒宴　彌美ヲ用フ　佐可彌豆伎万十八ノ十一丁　左加美都伎卅丁

【六言】

○みなのせかは相模ノ地名　美ヲ用フ　美奈能瀬河泊万十四ノ六丁

○みやのせかは地名　美ヲ用フ　美夜能瀬河泊万十四ノ廿六丁

○ひここのかみ人名　彌ヲ用フ　比登誤迺伽彌紀神武

○やしまじぬみ神号　美ヲ用フ　八島士奴美神古上

【七言】【八言】

○みまきいりひこ崇神天皇　美彌ヲ用フ　美麻紀いりひこ古中崇神　瀰磨紀いりひこ紀同

○たひりきしまるみ神号　美ヲ用フ　多比理岐志麻流美神古上

めの部

【賣】

○め女也　賣咩綿謎面ヲ用フ　さく賣古上　やましろ賣同　すがし賣古下仁徳　しこ賣紀神代　やましろ謎紀仁徳

こし賣万廿ノ四十丁　はつせ女六ノ十二丁　やまと女十四ノ十九丁　此外某女といふ事皆同じ事なり

【二言】

○某ひめ女ノ稱なり　賣謎面ヲ用フ　いすけより比賣古中神武　倭比賣同景行　いはの嶜謎紀仁德　さよ嬉面万五ノ廿五丁　さよ比賣同廿六丁　万葉五ノ廿四丁に一處米を用ひたるは正しからず

○某ひめ前ニ同ジ　賣ヲ用フ　さほ毗賣古中垂仁　河股毗賣同綏靖　此類ひ外をも准らへ知べし

○云々めし食又召也　賣咩ヲ用フ　をすくにを賣之たまはむこ万一ノ廿二丁　咩さけたまはね五ノ廿六丁　しらし賣之十八ノ廿丁廿二丁廿ノ廿四丁五十丁　賣之たまふらし十八ノ廿三丁　賣之たまひ廿ノ廿四丁　かくしこそ賣之あきらめめ廿ノ五十六丁　おほきみの賣之しぬべには同六十一丁　おもほし賣志て十九ノ四十二丁十八ノ廿一丁　米を用ひたる處はなし万葉十六ノ廿三丁ニ食ヲ云ニ賣世ともあり

○云々めす前ニ同シ　賣ヲ用フ　きこし賣須万廿ノ廿六丁　つきて賣須らし同六ノ十二丁　おもほし賣須な十五ノ卅

二丁聞許之賣須續日宣命しろし女須延喜式　廿ノ廿五丁に『きこし米‖須とあるは乎の字の誤にてきこし乎須なるべき歟

○云々めり上よりいひつゞくるめ也　賣ヲ用フ　ふゝ賣利万十八ノ十六丁廿ノ四十三丁

○云々める前ニ同シ　賣綿ヲ用フ　さた賣流古下允恭か綿蘆おほみき紀應神よご女留万十一ノ廿五丁　よご賣類よごに九ノ十三丁　きす賣流たま三ノ四十四丁つ賣流せり廿ノ四十八丁　ふゝ賣流十九ノ四十六丁　須賣流かはかも續日廿ノ十九丁　ふ賣留あこを佛足石哥　此外『水をくめる』『すめる月』『とめる人などいふめ‖にも皆賣を用ふべし

（附箋）

> ○云々めらめれ前ニ同　賣ヲ用フ　こはかな書なけれども前條と同じ格なれば賣を用ふべし

○めり辭也　賣馬ヲ用フ　をくさかち馬利万十四ノ十八丁　秋はいぬめりなどこれにひとし

○めひ越中ノ郡名　賣ヲ用フ　賣比のぬ万十一ノ四十八丁賣比かは同四十九丁

○須め皇　賣馬ヲ用フ　須賣いろど古下宣化　須賣いろ大中日子古中景行　須賣呂伎万十七ノ四十二丁

須賣神一ノ廿九丁七ノ廿一丁廿ノ卅八丁十七ノ卅四丁　須馬神十二ノ六丁　万葉廿ノ廿七丁に米の字を用ひたるは正しからず

○菜こめ女ノ稱也　賣ヲ用フ　しりつき斗賣古中應神　建國勝戸賣同開化　大闇見戸賣同　氷銫斗賣神社

『大比理刀咩命社神名帳

○菜こめ女ノ稱也　賣咩ヲ用フ　伊斯許理度賣古上　伊之居梨度咩紀神代

【三言】

○めこり人名　賣謎ヲ用フ　賣杼理古下仁德　謎廼利紀同

○あやめ菖蒲　賣ヲ用フ　安夜賣万十八ノ六丁　安夜女同廿四丁

○うねめ采女姓也　賣咩ヲ用フ　采女臣古中神武　宇泥咩紀允恭　采女万四ノ廿一丁

姓氏録ニ建刀米命ト天磧日命ナトアルハ利目ノ意ニテ別ナルペシ

○うすめ 神号　賣ヲ用フ　宇受賣 古上

○みぬめ 地名　賣面馬ヲ用フ　美奴面 万十五ノ十二丁　敏馬 同八丁　三犬女 六ノ十八四十七丁　美奴賣 津國風土記

○しめし 示　賣哱ヲ用フ　之賣須 万十五ノ卅六丁　斯哱斯 五ノ十三丁

○しめら 終　賣ヲ用フ　けふも之賣良に 万十七ノ廿七丁　ひるは之賣良に 十九ノ十五丁

○ひめた 娃　賣ヲ用フ　比賣陀 古中開化同下履中

○さなめ 神号　賣哱ヲ用フ　若沙那賣神 古上　天乃佐奈哱神 三代實錄

○なめさ 神号　賣ヲ用フ　那賣佐神社 出雲風土記神名帳　出雲風土記神門郡滑狹(ナメサ)郷もありこれらにも賣を用ふべし

○なめし 無禮　賣ヲ用フ　奈賣之久あらむ 續日宣命　こは外に假字書はなけれどもなめといふ事大かた賣を用ふる例なれば准らへて賣としつまた『書なめといふ事に賣の字に用ふるにや正しきかな書を見あたらず万葉十二ノ卅三丁に『かへりき嘗(ナメ)と十一ノ七丁に『こともやみなめ十三ノ廿一丁に『こひわたり七日と

あれども皆かりもじなり但し目の字を米の字のかりもじなれば云々なめといふ辭には米の字を用ひてよろしかるべくおもはる

【四言】

○ひめこそ 社名　賣ヲ用フ　比賣碁曾社 古中應神 紀垂仁

○うらめし 恨　賣ヲ用フ　宇良賣之 万五ノ五丁 廿ノ五十九丁

○いらつめ 娘　賣咩ヲ用フ　異羅菟咩 紀景行　伊羅都賣 紀天智 續日宣命

○いつのめ 神号　賣ヲ用フ　伊豆能賣神 古上

○たるひめ 越中ノ地名　賣ヲ用フ　多流比女 万十八ノ八丁　垂姫 十九ノ廿丁

○ここなめ 常也　馬ヲ用フ　床奈馬 万九ノ十一丁

○なめかた 地名　賣ヲ用フ　奈女加多 和名抄

【五言】【六言】

○みつはのめ神号 賣ヲ用フ 彌都波能賣神古上 神武紀に迷を用ひたるは正しからず

○ひめすがはら天上ニアル地名也 賣ヲ用フ 日賣すがはら万七ノ廿七丁

○たきまのめひ人名 咩ヲ用フ たきまの咩婁古中應神

【米】こはひろく用ふるかなゝり

○云々め辭也 米梅迷ヲ用フ しらずこもいは米古下仁德 いへにもゆか米くにをしぬば米同允恭 たゝみこいは梅紀同 いもにまかし毎継体 なれなりけ迷や推古 のちこそしら米万五ノ廿五丁 こひ米やさ十七ノ十七丁 おもほすら米や同十八丁 こきて米同廿丁 あひみし米こそ同四十四丁 たぬしきをへ米五十四丁 きなきこよ米ば十九ノ九丁 へにこそしな米十八ノ廿一丁 つかへまつらめ同廿三丁 みだれし米梅や十四ノ五丁 はるひきゆら米九ノ廿八丁 たゆるひあら米や三ノ十四丁 猶おほし但し万葉十四ノ十六丁に『せらし馬きなばつらはか馬かも同十丁

○しめ しめおく意ノしめ也　米ヲ用フ　み志米き古下顯宗之米ゆふ万廿ノ六十一丁

○せめ 責　米ヲ用フ　勢米万五ノ九丁

○そめ 染　米ヲ用フ　曾米古上万廿四十一丁

○そめ 始　米ヲ用フ　おもひ曾米万十五ノ十四丁みだれ曾米十四ノ十一丁

○ため 人名　米ヲ用フ　多米王古下敏達

○ため 爲　米ヲ用フ　のちみむ多米に万七ノ卅五丁こきの多米十五ノ廿七丁

○つめ 橋云詞也　梅ヲ用フ　うちはしの都梅紀天智

○つめ 爪　米ヲ用フ　うまの都米万十八ノ卅二丁廿ノ廿七丁

○ひめ 此說古事記傳にくはし　米ヲ用フ　氷目矢古上比米かふら万十六卅丁

○ほめ 稱美 米ヲ用フ 寳米 万廿ノ廿一丁

○まめ 豆 米ヲ用フ 麻米 万廿ノ廿三丁

○なめ 並 米ヲ用フ うま奈米て 万十七ノ廿六丁 をふねつら奈米 十九廿丁 此類ひ外をも准らへ知べし

○ゆめ 勤 米梅ヲ用フ さゝ人も由米 古下允恭 わかつまを由梅 紀同 ちりこすな由米 万八ノ廿一丁

【三言】

○めくし 愍 米ヲ用フ 米具斯 万五ノ廿丁

○めくみ 惠 米ヲ用フ 米具美 万十七ノ十九丁

○めくり 廻 米ヲ用フ ゆき米具利 万十七ノ十八丁 あり米具里 廿ノ十六丁

○めくり 邊 米ヲ用フ ありその米具利 万十八ノ九丁

○しめす 近江地名 米ヲ用フ 志米須 古下顯宗

○おきめ人名置目　米毎ヲ用フ　淤岐米古下顯宗於岐毎紀同

○かまめ鳥名　米ヲ用フ　加萬目万一ノ八丁

○かため堅　米ヲ用フ　可多米万十四ノ卅三丁廿ノ卅一丁

○いくめ人名　米ヲ用フ　伊久米いりびこ古中崇神

○さだめ定　米ヲ用フ　左太米万十八ノ廿二丁　『さためるといふ時は賣を用ふる例なる事賣の部にいひつ

○すゞめ鳥名　米ヲ用フ　須受米古下雄略

○つとめ勤　米ヲ用フ　都刀米万五ノ五十一丁

○とがめ害　米ヲ用フ　登賀米古上万十八ノ卅五丁

○とゞめ留　米ヲ用フ　等騰米万十七ノ四十二丁廿ノ卅七丁十四ノ三丁

○はじめ始　米ヲ用フ　波自米万十八 廿丁

○もこめ求　米ヲ用フ　母等米万十七ノ 四十七丁

○わかめ海草　米ヲ用フ　和可米万十四ノ 卅四丁　『にきめも准らへて米を用ふべし

○をさめ納　米ヲ用フ　乎左米万十七ノ 卅一丁

【四言】

○めづらし珍　梅米ヲ用フ　梅豆邏志紀神功　米頭良之万十五ノ 十五丁

○めづらこ人名　梅ヲ用フ　梅豆羅古紀繼体

○いさゝめ聊　米ヲ用フ　伊左佐目万七ノ 卅四丁

【五言】　【六言】

○やつめさす出雲ノ枕詞　米ヲ用フ　夜都米佐須古中景行

○たゝなめて枕詞　米梅ヲ用フ　多多那米氏古中神武哆哆奈梅弖紀同

○しりくめなは　米梅ヲ用フ　尻久米なは古上斯梨倶梅儺波紀神代

もの部

【母】

○云々も辭也　母ヲ用フ　こゝのかたりこゝ母『うれたく母古上このまよ母古中神武いたに母か古下雄畧へにはよれご母紀神代よのこゝ〳〵母紀神代くにのほ母みゆ紀應神こもしきろ加母古下雄畧こゝよに母加母同いま母みるごと万十七ノ卅六丁やごりするか母十五ノ十六丁わすらえぬか母廿ノ卅六丁　猶いとおほし但し書紀には茂毛望暮などをも用ひたり万葉には文勿物門問聞忘蒙毛云?とをもあまた用ひたれども猶古事記によりて母の字を用ふるぞ正しかりける

【二言】

○もだ 默然　母ヲ用フ　母太もあらむ 万十七ノ卅一丁　一處のみ也

○もち 黐　母ヲ用フ　母智ごり 万五ノ十七丁

○もち乛もつ 持　母ヲ用フ　くひさ母智神 古上 いしつゝい母知 古中神武 つま母多せらめ 古上 きこし母知をせ 古中應神 こくは母知 古下仁徳 うけ母知 紀神代 みここ母知 万十七ノ四十二丁　猶おほし万葉には毛物などを用ひたる處もあれど今は古事記にしたがひつ

○もこ 本又許也　母ヲ用フ　かき母登 古中神武 ひこ母登すゝき 古上 母等つひこ 万廿ノ四十三丁 この母登やま 十四ノ廿四丁 紀には茂を用ひたり

○もり 盛　母ヲ用フ　いひさへ母理乛みつさへ母理 紀武烈

○もり 森　母ヲ用フ　いくりの母里 万十七ノ十九丁

○云々もの 物又者　母ヲ用フ　すきばぬる母能 古下雄畧 もちてこまし母能 同履中 みかほし母能は 紀顯宗

はらへつ母能は紀神代　おひくる母能は万五ノ八丁　いりなまし母能十四ノ四丁　なにか母能もふ十七ノ廿九丁　むなしき母のこ五ノ四丁　猶おほし但し万葉には毛物勿暮などをもあまた用ひたれども古事記によりて母とさだめつ

○おも面　母ヲ用フ　淤母陀琉神上古　意母提万五ノ九丁廿　毛を用ひたる不正

○こも菰　母ヲ用フ　たつ碁母古下履中　かり許母同允恭　たたみ許母古中景行　まを其母万十四ノ廿八丁　万葉十五ノ五丁に毛を用ひたるは正しからず

○こも倶又友　母ヲ用フ　うかひが登母古中神武　等母にしつめば古下仁徳　しづをの登母万十八ノ十二丁　うかひ等母なへ十九ノ十二丁　うかひが登母は『登母いざなひて十七ノ四十五丁　神武紀にうかひが等茂万葉十九ノ卅九丁に『日月と登母にともあり凡て書紀万葉はもの字の用ひざま正しからず古事記によりて正すべし

○某こも等　母ヲ用フ　いざこ杼母古中應神　こ藤母万五ノ八丁　あまをこめ杼母十五ノ十五丁

【三言】

○もこめ求　母ヲ用フ　母等米万十七ノ四十七丁

○もとな俗めつたにといふ詞也　母ヲ用フ　母等奈かゝりて万五ノ八丁　母登奈みえつゝ十四ノ廿一丁いめには母等奈十七ノ卅三丁かけつゝ母等奈廿ノ四十三丁　毛を用ひたる處は正しからじ

○もころ如ト云ニ同シ　母ヲ用フ　母許呂を万十四ノ廿三丁　おかもの母己呂同廿九丁たゝりしも己呂廿ノ廿八丁

○もゆらゆら〳〵する也　母ヲ用フ　ぬなこも母由良に古上紀神代　万葉文毛を用ひたるは正しからじ

○あもり天降　母ヲ用フ　安母里万十九ノ廿九丁

○こもり隱　母ヲ用フ　許母理く古下允恭あをかきやま碁母礼流古中景行許母理つ古下仁德許母利め万十七ノ十六丁己母理こひ同卅九丁己母利つま十五ノ十丁よ其母理同十ノ五丁　書紀には慕茂を用ひたる又万葉十ノ廿八丁に毛を用ひたるは正しからず

○おもひ思　母ヲ用フ　淤母比古中應神紀景行万五ノ廿八丁十丁　紀には望をも用ひ万葉には毛をもまた用ひたれども猶古事記によりつ

○たもと袂　母ヲ用フ　多母登万十四ノ十九丁

○こもし乏　母ヲ用フ　登母志古下雄略万五ノ廿二丁廿ノ廿五丁　万葉に毛‖開‖などを用ひたるが不正ならん

○みもろ地名　母ヲ用フ　美母呂古下仁德雄略紀繼体　万葉七ノ五丁十一ノ十四丁に毛‖を用ひたるは正しからず

○よもぎ蓬　母ヲ用フ　余母疑万十八ノ卅丁

○よもつ黄泉　母ヲ用フ　豫母つしこめ古上譽母都へくひ『余母都ひらざか紀神代

○ころも衣　母ヲ用フ　許呂母古上万十五ノ廿丁十四ノ廿三丁　仁德紀に望‖を用ひ万葉には毛‖をもあまた用ひたれども猶古事記によりつ

○ころも人名又地名　母ヲ用フ　許呂母之別古中垂仁莒呂母能古紀仁德

【四言】

○もこほる回　母ヲ用フ　はひ母登ほろふ古中神武ほき母登ほし仲哀た母登ほり万十七ノ十八丁十九ノ七丁この母登保里の十九ノ卅二丁毛‖茂‖をも用ひたれども猶母‖によりつ

○こものを 伴長 母ヲ用フ 等母能乎 万十八ノ廿三丁 十九ノ四十九丁に毛を用ひたるは不正なるべし

○あこもひ さそひ立ル意也 母ヲ用フ 安騰母比 万九ノ廿八丁 廿ノ十八丁 二ノ廿四丁に毛を用ひたるも正しからじ

【五言】

○ものまをす 物申 母ヲ用フ 母能まをす 古下仁徳 書紀には茂を用ひたり

○おもしろし 心にかゝるやうの事也 母ヲ用フ 於母之楼枳 紀齊明 万葉十四ノ十九丁には於毛思路伎と毛の字を用ひたれどもおもとつゞく事多く母を用ひたれば今はしばらく母としつ

○ふはのもぢ 神号 母ヲ用フ 布波能母遅久奴須奴神 古上

【七言】

○たちまもろすく 人名 母ヲ用フ 多遅摩母呂須久 古中應神

【毛】

○も藻　毛ヲ用フ　毛紀崇神　はま毛紀允恭　たま毛万十四ノ十二丁十七ノ卅八丁　万葉十七ノ卅七丁に母を用ひたるは正しからじ

○も裳　毛ヲ用フ　たま毛万廿ノ四十七丁　毛ひきならしゝ同五十七丁　あか毛十七ノ廿九丁五ノ九丁　廿ノ卅六丁に母を用ひたるは正しからじ

○も喪　毛ヲ用フ　毛なくゆかむと万十五ノ廿五丁　裳なくもあらむと五ノ廿七丁　但し十五ノ廿九丁に母なくはやことゝもかけれど今は毛としつ

【二言】

○もこ　もとこの畧也　毛ヲ用フ　毛古古中應神紀仁德

○もず　鳥名　毛ヲ用フ　毛受古下仁德履中

○もみ　手ニテ物ヲモム也　毛ヲ用フ　毛美万十六ノ廿九丁

○もみ　國栖人かへるをもみと云　毛ヲ用フ　毛瀰紀應神

○もゝ百 二ツトモニ毛ヲ用フ　毛毛ちだる『毛毛つたふ古中應神毛毛たらず古下仁德毛毛だる古下雄畧毛なひこ紀神武毛毛くさ万五ノ九丁毛毛こり同十七丁毛毛か同廿四丁　書紀万葉には母茂謨謀などをも用ひたれども猶毛ぞ正しかるべき

○もゝ股　毛ヲ用フ　毛毛古上

○もゆ燎　毛ヲ用フ　毛由流古中景行同下履中毛要万十三ノ四十六丁

○もゆ萠也目生　毛ヲ用フ　毛要万十ノ四十三丁毛延しやなき十七ノ九丁

○いも妹　毛ヲ用フ　伊毛古上古中應神同下允恭紀仁德万十七ノ十九丁十九ノ卅丁十八ノ十四丁廿六丁五ノ五丁　但し万葉には母ともあまた處に用ひたれども毛を用ひたる處のおほければ猶毛の字にしたがひつ又書紀には茂慕暮母などをも用ひたり凡て書紀万葉には毛母の用ひざま正しからず

○かも鴨　毛ヲ用フ　加毛古上あし賀毛万十七ノ卅七丁　万葉十四ノ廿五丁十七ノ四十六丁に母を用ひたるは正しからず

○きも肝　毛ヲ用フ　岐毛古下仁德万十六ノ卅一丁

○かも山城地名　毛ヲ用フ　迦毛古上

○くも雲　毛ヲ用フ　玖毛古下仁德紀景行万五ノ七丁十七ノ八丁　万葉には母をも用ひたれども猶毛によりつ

○くも虫ノ名　毛ヲ用フ　久毛万五ノ卅丁　書紀には茂を用ひたり

○しも下　毛ヲ用フ　斯毛つせ古下允恭　万葉に母を用ひたる正しからず

○しも霜　毛ヲ用フ　斯毛紀景行万五ノ九丁十五ノ十一丁廿五丁廿六丁廿ノ四十二丁　万葉十四ノ九丁に母を用ひたるは正しからじ

○とも船舳也　毛ヲ用フ　登毛万十四卅三丁　ふな騰毛十九ノ卅六丁　十九ノ卅九丁に一處母をも用ひたり

○ひも紐　毛ヲ用フ　臂毛紀允恭万十四ノ五丁

【三言】

○もみぢ黄葉　毛ヲ用フ　毛美知万十五ノ廿七丁廿五丁十九ノ四十三丁十七ノ卅七丁　毛美でる八ノ五十三丁　毛美都十四ノ廿五丁　母を

用ひたる處二處あるは不正ならん

○もりべ守人　毛ヲ用フ　毛利敝万十四ノ十丁　まもるといふ事も考へ合するに母を用ひたる處もあるは正しからじ

○まもる守　毛ヲ用フ　麻毛らひ古中神武紀同　あた麻毛流万廿ノ十八丁　麻毛利十八ノ廿一丁

○くもり曇　毛ヲ用フ　久毛利よ万十四ノ七丁　この具毛利万十八ノ卅三丁　十七ノ四十五丁廿ノ卅六丁に母を用ひたるは正しからず

○しもこ楉　毛ヲ用フ　之毛等万十四ノ廿四丁

○うもり人名　毛ヲ用フ　宇毛理王古下敏達

○いづも國名出雲　伊豆毛古上古中崇神紀同紀神代神名帳

【四言】

○もろ〱諸　毛ヲ用フ　毛呂ひこ万五ノ十八丁十八ノ九丁　但し母を用ひたる處もあり

○もゝしき宮の枕詞 二ツトモ 毛ヲ用ツ　毛毛志紀古下雄畧　万葉十八ノ七丁に『毛母‖之綺とあるは母‖の字の用ひさま正しからず

○さもらふ候　毛ヲ用フ　佐毛良布万廿ノ卅四丁 佐守布万七ノ十五丁　二ノ卅五丁に佐母良比ともあれど今はしばらく毛としつ

○こもしび燈　毛ヲ用フ　登毛之備万十八ノ十丁十五ノ十二丁同十七丁

○ねもころ懇　毛ヲ用フ　禰毛己呂万十四ノ十三丁十八ノ卅丁九ノ十五丁　廿ノ四十七丁に母を用ひたるは不正ならん

○ひもろき神籬　毛ヲ用フ　紐呂寸万十一ノ廿八丁　崇神紀には比莽呂岐とありこはきはめていひがたけれども紐のも‖にも毛‖の字を用ひたればしばらくあげつ

○さきもり防人　毛ヲ用フ　佐伎毛利万廿ノ廿九丁　母‖を用ひたる處もあれど守のも‖にも毛を用ひたれば毛としつ

○ひねもす終日　毛ヲ用フ　比禰毛須万十八ノ七丁

○つちくも土蜘　毛ヲ用フ　土具毛古中神武

【五言】

○たぢまもり人名　毛ヲ用フ　多遲摩毛理古中應神

○しもつけぬ國名　毛ヲ用フ　下のも‖には毛‖を用ふる例上にいひつ但し万葉十四の十四丁に母を用ひたる正しからじ

「や」「い」「ゆ」「え」「よ」　や‖い‖ゆ‖の假字用ひさま定りなければあげず又え‖の假字はあ‖い‖う‖え‖お‖の部にあげたればこゝには略きつ

よの部

【用】

○よ夜　用欲ヲ用フ　用にはこゝの用古中景行紀同さ用ばひ『用はいでなむ古上ひこ用紀允恭　しも用万廿ノ四十二丁さ欲十九ノ十四丁いく欲十八ノ十四丁　猶あまたあれども今はつまみてあげつ万葉十七ノ三丁に與‖を用ひたるは正しからず

○云々よゆえに通フよ也　用欲ヲ用フ　奈用竹万二ノ四十丁　よにも多欲良に十四ノ七丁　にひくは麻欲同三丁
欲太知同廿二丁

【二言】

○より従　用欲庸ヲ用フ　しりつゝ用『まへつゝ用古中崇神あす用理は古下顯宗紀同した用はへつゝ古下仁德おほきこ庸利紀崇神　ひれふりし用利万五ノ廿四丁くすりはむ用は同十九丁　こほきはしめ欲十九ノ十三丁　われ欲りも五ノ廿九丁　人のくに用理續日宣命　猶おほし但し万葉十八ノ九丁に余を用ひたるは正しからず

○よふ呼　欲ヲ用フ　かこのこゑ欲妣万十五ノ十七丁　たこの欲妣さか十四ノ十七丁　いもかな欲妣て同六丁

○あよ出雲ノ地名　用欲ヲ用フ　阿用出雲風土記和名抄　阿欲出雲風土記

○まよ眉　用欲ヲ用フ　麻用かき古中應神　麻用びき紀仲哀　麻欲びき万五ノ九丁十四ノ廿九丁十九ノ卅丁

【三言】

○よだち役ノ東語　欲ヲ用フ　欲太知万十四ノ廿二丁

○かよふ通　用欲ヲ用フ　あり加用はせ古上あり我欲比万十八ノ廿三丁　加欲數十七ノ廿七丁廿九丁　猶おほし一處も與余などを用ひず

○きよし淨　用欲ヲ用フ　吉用伎万廿ノ五十一丁　伎欲吉万十五ノ十丁廿八丁十七ノ十九丁廿丁廿八丁四十二丁十八ノ廿一丁　はま藝欲伎十五ノ十四丁

○まよふ迷　欲ヲ用フ　佐麻欲比万二ノ三十五丁二十ノ三十七丁

○まよひ夜なとの斃也　欲ヲ用フ　麻欲比万十四ノ十九丁

○たよら絶也但し東語　欲ヲ用フ　多欲良万十四ノ七丁　十四ノ十四丁に雪を與伎とかける與の字は不正なるべき歟おほく由と欲と通はして用ひたり

【四言】

○さよひめ人名　用欲容ヲ用フ　佐用ひめ万廿ノ廿四丁佐欲ひめ同廿三丁佐容ひめ同廿六丁

○なよたけしなやかなる竹也　用ヲ用フ　奈用竹万二ノ四十丁

○いさよふ猶豫　用欲ヲ用フ　伊佐用布古中景行射佐欲比万三ノ廿六丁十四ノ廿七丁　万葉六ノ卅二丁に『不知與經
七ノ三丁に不知與歴とあるは正しからず

○かゞよふ炫　用欲ヲ用フ　香用ひめ古上加我欲布万六ノ廿丁十一ノ廿六丁

○たゞよふ飄流　用ヲ用フ　多陀用幣流古上

○あさよひ夜ル晝ル意也　欲ヲ用フ　安佐欲比万十七ノ四十丁四十三丁廿ノ五十四丁二處　但し十八ノ廿六丁には余を
用ひたりこは不正なるべしあさよひといふは宵の意とは異意ときこゆればなり

【五言】

○よぶこどり鳥名　欲ヲ用フ　喚孤鳥万十ノ十五丁　喚の字には欲を用ふる事上にいひつ

【余】

○よ世又代　余餘與譽豫ヲ用フ　余のこゝ〳〵古上譽のこゝ〳〵紀神代豫のこほ人同仁徳餘のなか万十七ノ廿九丁與のこゝわざ十九ノ廿九丁　猶おほし皆おなじ事なり

○よ辭也　余與豫預譽ヲ用フ　あはも與古上つきたゝなむ余古中景行あたはぬかも譽紀神代まそか豫紀推古たれかかけむ預同雄畧はなかづらせ余万十九ノ十一丁こゝろつこめ與廿ノ五十一丁　猶あり万葉十四ノ十四丁に『いかほせ欲とあるよも辭ならば不正なり

○よ節也　余ヲ用フ　余たけ紀繼体

【二言】

○よき避　與ヲ用フ　與奇ぢ万七ノ廿一丁與久流十五ノ廿三丁與久列こ九ノ十一丁

○よこ横　與余豫ヲ用フ　余許さらふ古中應神余久須同豫區周同紀與許やま万十四ノ廿九丁與己さ十八ノ卅六丁

○よし吉　余與豫ヲ用フ　與斯古下仁德　豫者同紀　ちりぬこも與斯万五ノ十五丁　ゆき余けご十五ノ廿一丁

○よし緣　與余ヲ用フ　ゆく與思をなみ万十五ノ十四丁　きむ餘之もがも十七ノ十八丁

○某よしよは辭也　余與預ヲ用フ　あをに余志古下仁德万十九ノ四十三丁　やほに余志古下雄略　おふを余志同寧

あをに預辭紀仁德　あをに與志紀武烈万五ノ十一丁　此外『ますげよし『たまもよし『あさもよしなど皆これに准らへて知るべし

○よそ外　余與ヲ用フ　余曾万十九ノ十六丁十七ノ卅二丁十七ノ四十丁　與曾十四ノ十三丁十五ノ六丁

○よち同齡ノ童子ヲ云　余ヲ用フ　余知万十四ノ十七十五ノ九丁

○よち欒　與ヲ用フ　與治万九ノ十丁十九ノ四十八丁

○よご水ノ深處又地名　與余ヲ用フ　與騰余藤万三ノ廿九丁　余杼む一ノ十七丁　與杼神社神名帳

○よひ宵　余與豫ヲ用フ　豫譬紀允恭　許余比万十八ノ十三丁十四ノ十九丁廿丁廿一丁　己與比廿ノ五十七丁　但し万葉十五ノ十五丁になみのうへにうきねせし欲比あともへかともあり不正なるべきかあさよひといふには欲を用ひた

れば通はしても用ふる例なるか

○よむ 物を數ふる也　豫余ヲ用フ　うた豫彌武紀神つきひ餘美つゝ万廿十八丁十七ノ卅三丁つき餘米ば廿ノ十七丁余美つゝ十八ノ十四丁　猶あまたあり

○よみ 黄泉　豫譽余ヲ用フ　豫母都しこめ古上譽毋都へくひ『余毋都ひらさか紀神代

○よる 寄　余譽與豫ヲ用フ　余理こね古下允恭譽戻ごも『めろ豫嗣に豫利こね紀神代 與利こね万十四ノ六丁 きみに餘里十七ノ十六丁せめ余利きたる五ノ七丁　猶あまたあり但し万葉十四ノ廿四丁に『あつさゆみ欲良のやまへとあるは不正なるべし寄のよには欲をば用ひたる事なし

○そよ 物ノ音也　與ヲ用フ　曾與万廿ノ卅四丁もこはも曾世に十ノ卅二丁　枕も衣世に十二ノ六丁

○こよ 豐　與余豫ヲ用フ　登與みき古上等豫ほき紀神功

○いよ 國名　豫余與ヲ用フ　伊豫古上紀景行万五ノ廿八丁　伊余古中神武下允恭　伊與紀清寧万三ノ卅九丁　伊余都紀持統

○ほよ 枝也　與ヲ用フ　保與万十八ノ卅七丁

【三言】

○よそふ 人名　與ヲ用フ　與曾布万廿ノ廿八丁

○よそひ 裝束　余與ヲ用フ　與曾比古上万十四ノ廿九丁　余曾比古上　譽贈比紀神代　餘曾比廿ノ卅丁

○よそり　余與ヲ用フ　余曾利万十四ノ十二丁　余所留十三ノ廿三丁　與曾理なく三十八丁

○よそへ　與ヲ用フ　與曾倍十九ノ五十七丁十ノ六十丁

○よすが 因處　余ヲ用フ　余須可

○よしぬ 地名　余與ヲ用フ　余思努万十八ノ廿五丁　與之努同中

○よさみ 姓又地名　余預ヲ用フ　余佐美古中應神　豫佐瀰紀同

○よもき 蓬　余ヲ用フ　余母疑万十八ノ卅丁

○よゝむ舌のまはらぬ也　與余ヲ用フ　與余牟万四ノ五十五丁

○よろき相模ノ地名　余與ヲ用フ　余呂伎のはま万十四ノ七丁　與呂伎神社神名帳

○よろづ萬　豫余與ヲ用フ　豫呂豆よ紀推古　余呂豆よ万五ノ十五丁廿五丁　與呂豆よ十七ノ四十丁

○よろし宜　與豫ヲ用フ　與呂志古上万十八ノ廿八丁　豫呂辞紀神應

○よろふ整　與ヲ用フ　こり與呂布万一ノ七丁

○いよゝ彌　與余ヲ用フ　伊與余ますく万五ノ四丁　伊與餘こぐべし廿ノ五十一丁

○およし老たる人を云　余ヲ用フ　意余斯万五ノ十丁

○こよみ動騒　與余豫ヲ用フ　登與牟古上　登余牟古下允恭　等豫牟紀安康　した騰余瀰紀武烈　登與美万十四ノ廿二丁

○ひこよ一枝也　與ヲ用フ　一與万八ノ廿丁廿一丁

○こゝよ 底寄國　余與豫預ヲ用フ　登許余 古中仲哀 等虚豫 紀神功 騰擧預のかみ 紀皇極 等己與のくに 万五ノ廿三丁

【四言】

○よさづら 犬吉葛　與ヲ用フ　あまの與佐圖羅 紀神代

○某よりひめ 人名　余ヲ用フ　伊須氣余理ひめ 古中神武 香カク余理ひめ 古中景行

○およづれ 妖言　余與ヲ用フ　於余頭礼 万三ノ四十五丁十七ノ廿一丁　於與豆礼 續日宣命

○なまよみ 甲斐ノ枕詞　余ヲ用フ　奈麻余美 三ノ廿七丁

○にこよか 笑貝　余餘ヲ用フ　尓古餘可 万廿ノ十四丁 尓故余漢カニ 十一ノ卅九丁

○つくよみ 月也　余ヲ用フ　月余美 万十五ノ七丁十一ノ丁　但し十三ノ八丁には『月夜見とも』あり不正なゝんか

【五言】

○はしきよし愛 豫與餘ヲ用フ 波辞枳豫辞紀景行 波之伎餘之万十九ノ廿八丁廿ノ五十九丁十七ノ廿一丁十八ノ廿三丁 作之伎與之五ノ六丁

「ら」「り」「る」「れ」「ろ」 りるれの假字は用ひざま定りなければあげず

らの部

【羅】 羅は良と通用するかななりされど用ひわけたる處もあれば今はそのかぎりをいだしつこれらも書紀万葉は正しからねば古事記にのみよりつ凡て羅の字は人名地名などに多く用ふる假字なり又良の字は羅の字にくらぶればいとひろく用ふるかなゝれば今はもらしてあげずおしなべて用ふる假字としるべし

【二言】【三言】

○ゆら紀ノ國ノ地名 羅ヲ用フ 湯羅のさき万九ノ八丁二處

○つゝら 連也　羅ヲ用フ　をふね都羅羅玖古下仁徳

○ひらか 平瓮　羅ヲ用フ　八十毗羅訶古中崇神 毗羅介紀神武　但し古事記上卷には良の字をも用ひたり

○ひらて 葉盤　羅ヲ用フ　比羅傳古中仲哀紀神武

○うらけ 酒醉也　羅ヲ用フ　宇羅宜古中應神　但し履中段には良の字をも用ひたり

○くらけ 海月　羅ヲ用フ　久羅下古上

○あから　羅ヲ用フ　赤羅ひく万十ノ廿五丁四ノ卅四丁　赤羅をふね十六ノ廿五丁　こは万葉に良の字を用ひたる處一ツもなきゆゑにいだしつ

○さらら 人名又姓也　羅ヲ用フ　娑羅々皇女紀天智　娑羅々馬飼造天武

○まつら 筑紫ノ地名　羅ヲ用フ　末羅古中仲哀　神功紀には梅豆羅國ともありこはまつらのもとの名也但し万葉五ノ卷には良の字を用ひたり

○まうら 神号　羅ヲ用フ　天津麻羅古上

【四言】

○へらさか地名　羅ヲ用フ　幣羅坂古中崇神

○ひゝらき木名　羅ヲ用フ　比比羅木古上古中景行

○わから川山城ニある川ノ名　羅ヲ用フ　和訶羅河古中崇神

○かひへら神号　羅ヲ用フ　甲斐辨羅神古上

○きさら夷ノ地名　羅ヲ用フ　都岐沙羅紀齊明

【五言】

○かふらさき大和ノ地名　羅ヲ用フ　訶夫羅前古中神武

○はつらわけ人名　羅ヲ用フ　豐波豆羅和氣古中崇神

○かわらしま筑紫地名　羅ヲ用フ　各羅(カワ)嶋紀雄略　出雲風土記に加和羅社といふもあり

【六言】

○かわらのさき宇遅ニある地名也　羅ヲ用フ　訶和羅之前古中應神　仁徳紀には考羅(カウ)のわたりとあり

ろの部

【漏】

○ろ東哥ると云フべき處に用ルろ也　路ヲ用フ　布路ゆき万十四ノ十四丁　あらは路までも同十三丁　あ路こそえきも同廿七丁　あをやきのはら路かはこ同卅一丁　ゆふけにもこよひこのら路同廿一丁

【二言】

○くろ黒　路漏ヲ用フ　久路岐みけし古上に具漏岐古中應神　訶具漏ひめ古中景行　迦具漏伎万五ノ九丁　久路のみ

廿ノ十九丁 久路こま十四ノ十七丁 雄略紀に矩盧こま万葉十五ノ十七丁に可具呂伎かみとあるは正しからず

○しろ白　漏路ヲ用フ　斯漏たへ古下雄略 万十五ノ卅丁 ね士漏の斯漏ただむき古下仁徳紀同 斯路岐上古 ね白路たかゞや万十四ノ廿五丁 思路たへ十四ノ十八丁廿ノ卅七丁十八ノ廿九丁十七ノ廿九丁 ま之路のたか十九ノ十二丁　万葉十五ノ卅四丁に之呂たへとあるは不正なりすべて白黒のろには漏路を用ひて呂をは用ひざる例なり

○むろ室世又木ノ名又地名　盧路漏婁ヲ用フ　おほ牟盧古中神武 おほ務露紀同 牟婁郡紀持統和名抄 にひ牟路万十四ノ廿六丁 武路がや同卅一丁 牟漏のき十九ノ七丁 牟漏女王姓氏録　呂を用ひたる處なし

【三言】

○くろほ上野ノ地名　路ヲ用フ　久路保万十四ノ十三丁

○ふくろ袋　路漏ヲ用フ　はり夫久路万十八ノ卅九丁 すり夫久路同卅七丁 福路二ノ廿五丁 布久漏神社神名帳 布久路和名抄　呂を用ひたる處はなし

○をむろ（吉野ノ地名）　漏羅ヲ用フ　袁牟漏かたけ（古下雄略）　鳴武羅（紀同）

○あろし（主人）　路ヲ用フ　安路自（万廿ノ五十九丁）

【四言】

○くろざき（地名）　漏ヲ用フ　玖漏邪岐（古下仁德）

○かぎろひ（火ノ煙也）　漏ヲ用フ　迦藝漏肥（古下履中）

○まつろふ（從也）　樓漏羅ヲ用フ　麻都樓波奴（古中景行）麻都漏波奴（同崇神）　摩都羅符（紀雄略）　但し万葉十八ノ廿一丁十九ノ廿七丁廿ノ五十丁には呂を用ひたれども古事記書紀によりて路を用ふべし

○はろ〳〵（遙）　魯漏ヲ用フ　神魯企（續日宣命延喜式古語拾遺）　神漏義（延喜式）　神漏岐神漏美（台記別記）　但し延喜式には加夫呂伎ともあれども今はしばらくおほきかたによりて定めつ

【五言】　【六言】

○おもしろし心にかゝるやうの事　樓路ヲ用フ　於母之樓枳紀齊明　於毛思路伎万十四ノ十九丁

○いちしろし明白　路ヲ用フ　伊知之路久万十七ノ十六丁

○くろうしがた紀ノ國ノ地名　漏ヲ用フ　久漏牛がた万九ノ卅二丁

【呂】

○ろ助辭　呂侶盧ヲ用フ　須かし呂こ郎女古下用明くにのまほ呂古中景行をたて呂かも同應神　おほきみ呂かも古下仁德め盧よしに紀神代たふこき呂かも万五ノ十三丁こ呂せたまくら十四ノ十三丁はこねのね呂同丁こゝろのを呂同廿一丁こ侶がはだはも廿ノ四十二丁をそ呂四ノ四十丁　猶おほかれども與ならぬははぶきつ

【二言】

○いろ色　呂ヲ用フ　伊呂万十四ノ八丁十九ノ十三丁十五ノ廿六丁廿ノ四十一丁　猶おほし

○ころ頃　呂ヲ用フ　この許呂万十四ノ廿六丁

○しろ代　呂ヲ用フ　阿自呂万七ノ十一丁　なは之呂十四ノ卅五丁

○ひろ廣　呂ヲ用フ　比呂理古下仁德は毗呂くまかし同雄畧は毘呂ゆつはつばき仁德比呂はし万十四ノ卅丁

○ほろ　ほろ〱などいふほろ也　呂ヲ用フ　富呂にふみあたし万十九ノ卅三丁

○まろ丸　呂ヲ用フ　末呂ねをすれば万十八ノ廿五丁

○まろ人ノ名云　呂侶ヲ用フ　麻呂かち古中應神紀同麻呂古王古下欽明烏摩呂紀神功安麻呂天武意古麻呂万十六ノ十七丁仲麻呂十七ノ十四丁　但し天武紀には麼漏と三處あり違ならんとおもはる

○云々ろひ『ろふ躰言を活用して云ろ也　呂ヲ用フ　はひもこ不呂布古中神武つゝし呂比万五ノ廿九丁須々呂比て同丁うつ呂比十九ノ十五丁十七ノ卅二丁ほこ呂へこ五ノ廿九丁　此類ひ外をも准らへ知べし

【三言】

○いろせ『いろこ　呂ヲ用フ　伊呂勢古上古中神武蝿伊呂杼古中安寧

○いろへ人名　呂ヲ用フ　百師木伊呂辨古中應神

○おろす織也　呂ヲ用フ　於呂須はた古下仁德

○おろす下　呂ヲ用フ　えたきり於呂之万十五ノ七丁

○おろか愚　呂ヲ用フ　於呂可万十八ノ九丁ここ於呂はへ十四ノ廿九丁

○ころひ嘖讓　盧呂ヲ用フ　擧盧毗紀神代許呂波要万十四ノ廿九丁

○ころす殺　呂ヲ用フ　許呂佐務紀崇神

○ころし人名　呂ヲ用フ　許呂斯紀仁德

○ころも衣　呂ヲ用フ　許呂母万上紀仁德万十五ノ廿丁十四ノ廿二丁廿ノ四十二丁

○ころも 人名又地名　呂ヲ用フ　許呂母之別 古中垂仁 首呂母能古 紀仁德

○ひろふ 拾　呂ヲ用フ　比呂波牟 万十四ノ十一丁

○よろき 相模ノ郡名　呂ヲ用フ　余呂伎のはま 万十四ノ七丁 與呂伎神社 神名帳

○よろづ 萬　呂ヲ用フ　豫呂豆よ 紀推古万五ノ十七丁卅五丁十七ノ四十一丁

○よろし 宜　呂廬慮ヲ用フ　與呂志 古上紀顯神万十八ノ廿八丁 與慮斯企 紀雄略 與廬斯企 同紀

○よろひ 慭　呂ヲ用フ　こり與呂布 万一ノ七丁

○おぎろ 頤　呂ヲ用フ　於藝呂なき 万廿ノ廿五丁

○くしろ 釧　侶呂廬ヲ用フ　佐久久斯侶 古上 矩矢廬 紀繼体 久志呂 万九ノ廿五丁

○こゝろ 心　呂ヲ用フ　許許呂 古上古中顯神紀同仁德万十九ノ十一丁十八ノ十九丁五ノ六丁

○こころ處　呂ヲ用フ　等己呂万十九ノ四十七丁

○こころ多萩蕷葛なり　呂ヲ用フ　登許呂づら古中景行

○こゞろ物の響也　呂ヲ用フ　登杼呂こし古上　等騰呂万十八ノ卅七丁

○むしろ莚　呂侶盧ヲ用フ　武志呂紀仁徳万八ノ卅二丁　武斯盧紀顯宗　いな武思侶万十一ノ廿六丁

○みもろ地名　呂侶盧ヲ用フ　美母呂古下仁徳雄畧　美母盧紀繼体　三毛侶万七ノ二丁十一ノ十四丁

○もころ如　呂ヲ用フ　母許呂万十四ノ廿三丁同廿九丁廿ノ廿八丁

○やしろ社　呂ヲ用フ　夜之呂万七ノ卅二丁

○をろち大蛇　呂ヲ用フ　遠呂智古上

○ほころ雪のふるに云詞　呂ヲ用フ　保杼呂万八ノ五十四丁十ノ六十丁

○をしろ人名尾代　盧ヲ用フ　嗚之盧能古紀雄略　代シロのろには呂を用ふる例なり

○うしろ後　呂盧ヲ用フ　宇斯呂古中照神　于之盧紀齊明

【四言】

○ころゝきとろける也二ツトモニ　呂ヲ用フ　斗呂呂岐古上

○ほろぼす亡　呂ヲ用フ　保呂煩散余万十五ノ卅丁

○みろなみ神号　呂ヲ用フ　美呂浪神古上

○もろ〳〵諸　呂ヲ用フ　毛呂ひこ万五ノ十八丁十八ノ廿丁

○よろほひ　呂ヲ用フ　豫呂朋譬紀仁徳

○ころふす臥　呂ヲ用フ　許呂臥万二ノ卅二丁

○をろがみ拝　呂ヲ用フ　烏呂餓彌古紀推古

○うつろひ移　呂ヲ用フ　宇都呂比万十五ノ廿九丁十七ノ卅二丁　猶おほし但し十七ノ十二丁卅三丁に路を用ひたるは不正なるべし

○すめろぎ皇祖　呂ヲ用フ　須賣呂伎万十七ノ四十二丁十五ノ廿三丁

○たひろく飄掌　盧ヲ用フ　陀毗盧脩須紀神代

○ひもろき神籬　呂ヲ用フ　比莽呂伎紀崇神万十一ノ廿八丁

○このしろ魚名又人名　盧ヲ用フ　舉能之盧紀皇極

○なはしろ苗代　呂ヲ用フ　奈波之呂万十四ノ卅五丁

○ねもころ懇　呂侶ヲ用フ　禰毛己呂万十四ノ十三丁廿ノ四十七丁十八ノ卅丁　根毛居侶九ノ十五丁

○みやしろ地名　呂ヲ用フ　美夜自呂万十四ノ卅五丁

○やましろ 國名　呂ヲ用フ　夜麻志呂 古下仁徳紀同

【五言】

○おしろわけ 人名　呂ヲ用フ　淤斯呂和氣 古中垂仁

○こほしろし 大キなる也　呂ヲ用フ　やまたかみかは登保志呂之 万三ノ廿九丁十七ノ四十四丁

○よのほごろ 夜の明方也　呂ヲ用フ　夜之穗杼呂 万四ノ五十三丁八ノ卅六丁

○もこほろふ 回也　呂ヲ用フ　はひ母登富呂布 古中神武同景行

【六言】

○おのころしま 島名　呂ヲ用フ　淤能碁呂志摩 古下仁徳

○おしころわけ 隱伎ノ國ノ又ノ名　呂ヲ用フ　忍許呂別 古上

○ひしろのみや 宮處名也 呂ヲ用フ 比志呂乃美夜 古下雄畧

○こをろこをろ 凝 呂ヲ用フ 許袁呂許袁呂 古上古下雄畧

○いきこほろし 憤 呂ヲ用フ 異枳廼倍呂之 紀神功

【七言】

○たちまもろすく 人名 呂ヲ用フ 多遲摩毋呂須久 古中應神

「わ」「ゐ」「う」「え」「を」 ‖ゐうゑの假字は用ひざま定りなし

わの部

【丸】

○わに 姓又地名 丸ヲ用フ 丸迩臣 古中開化崇神 丸迩坂 同崇神 丸迩のひふれ 同應神 丸迩池 古下仁德 丸迩之佐都

紀臣（同雄畧）　こは姓地名の外には用ひぬかななり顯神段の歌には和邇佐と正しく和の字を用ひたり又天武紀にも和珥都臣などとあり

をの部

【越】

【二言】　【三言】

○をち（地名又人名）　越ヲ用フ　越智（紀天武）　越智野（万二ノ廿二丁）　越智神社（神名帳）　越智都（和名抄）　越智（姓氏録）　但し書紀万葉に遠智とも乎知ともかける處あり

○をち　をちかへりといふをち也　越ヲ用フ　また越知ぬべし（万五ノ十九丁）

○をこめ（女ノ稱）　越ヲ用フ　越等賣（万五ノ廿三丁二處）　凡てこれらはシコのシに色を用ひたる例にて同韻のかなにのみ用ふる格なりさて越の字は此外はをさ〴〵用ひぬかなゝるを万葉五ノ十丁に『よるのいめに越つぎ

て見えこそとあるこれも越の下につ‖の字ありてヲチヲツヲトとうごく韻なるゆゑにやあらん

文科大學國語研究室藏本によりて謄寫了

明治四拾貳年五月　　橋本進吉

圖書寮本によりて校了　　正宗敦夫寫

假字遣奧山路　下

昭和四年九月十五日印刷　日本古典全集
昭和四年九月二十日發行　第三期【非賣品】

假字遣奥の山路
下卷

編纂者　正宗敦夫

發行者　東京府北豐島郡長崎町一六二
合資會社日本古典全集刊行會
代表社員　長島東一

裝幀者　廣川松五郎

印刷者　東京府北豐島郡長崎町一六二
不二製版印刷所
高顯濤吉

發行所　東京府北豐島郡長崎町一六二
合資會社　日本古典全集刊行會
振替東京七三〇三二




EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 02955 5943